

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

国がん発第 104 号
令和 5 年 10 月 3 日
開設者名 国立研究開発法人国立がん研究センター
理事長 中 釜 齊

国立研究開発法人国立がん研究センター東病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
氏名	国立研究開発法人 国立がん研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院

3 所在の場所

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
電話(04)7133-1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
○	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科		3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科		8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科		16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
				425	425

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	262	17.9	279.9	看護補助者	74	診療エックス線技師	0
歯科医師	2	0.0	2.0	理学療法士	6	臨床検査技師	78
薬剤師	80	0.0	80.0	作業療法士	1	衛生検査技師	0
保健師	0	0.3	0.3	視能訓練士	0	その他	0
助産師	0	0.0	0.0	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	520	21.3	541.3	臨床工学士	5	医療社会事業従事者	8
准看護師	0	0.0	0.0	栄養士	0	その他の技術員	22
歯科衛生士	2	0.0	2.0	歯科技工士	0	事務職員	199
管理栄養士	10	0.8	10.8	診療放射線技師	57	その他の職員	329

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	31	眼科専門医	0
外科専門医	27	耳鼻咽喉科専門医	5
精神科専門医	1	放射線科専門医	17
小児科専門医	1	脳神経外科専門医	0
皮膚科専門医	1	整形外科専門医	0
泌尿器科専門医	2	麻酔科専門医	2
産婦人科専門医	3	救急科専門医	0
		合計	90

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大 津 敦) 任年月日 令和 22 年 4 月 1 日

当院における医療事故防止及び医療事故に係る対応方法等医療安全管理について審議するために設置された医療事故等防止対策委員会(平成28年7月～医療安全管理委員会)に平成22年4月1日から委員として医療に係る安全管理の業務に従事。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	397.8 人	0 人	397.8 人
1日当たり平均外来患者数	1338.5 人	50.2 人	1388.7 人
1日当たり平均調剤数	3374.6		剤
必要医師数	116.65		人
必要歯科医師数	2		人
必要薬剤師数	14		人
必要(准)看護師数	246		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	408.06 m ²	鉄骨造	病床数	8 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	124 m ²	病床数	8 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	108.79 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	330.8 m ²	鉄骨鉄筋コンクリー	(主な設備)	生化学臨床検査システム		
細菌検査室	128.37 m ²	鉄骨鉄筋コンクリー	(主な設備)	微生物同定・薬剤感受性装置		
病理検査室	620.2 m ²	鉄骨造	(主な設備)	自動固定包埋装置、組織標本作成装置		
病理解剖室	48.36 m ²	鉄骨鉄筋コンクリー	(主な設備)	病理解剖装置一式		
研究室	985.5 m ²	鉄骨鉄筋コンクリー	(主な設備)	自動染色装置		
講義室	285 m ²	鉄骨鉄筋コンクリー	室数 3 室	收容定員	160 人	
図書室	117.05 m ²	鉄骨鉄筋コンクリー	室数 1 室	蔵書数	3900 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		101.9	%	逆紹介率		80.7	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数			10,111		人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8,547		人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			697		人	
	D: 初診の患者の数			10,597		人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
長谷川 奉延	慶應義塾大学病院	○	特定機能病院の 医療安全管理体制に精 通	無	1
小田 竜也	筑波大学附属病院		特定機能病院の 医療安全管理体制に精 通	無	1
野田真由美	NPO法人支えあう会「α」		患者団体の役員として 医療問題に精通	無	2
福田 剛久	田辺総合法律事務所		弁護士として関係の法 律に精通	無	1
林 隆一	国立がん研究センター東病院		診療担当副院長として 院内診療・医療安全体 制を熟知	有	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
当院のホームページに記載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
陽子線治療	65
先進医療の種類合計数	1
取扱患者数の合計(人)	65

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	0
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法	0
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん	6
術後のアスピリン経口投与療法	8
プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断	1
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法	2
マルチプレックス遺伝子パネル検査	1
シスプラチン静脈内投与及び強度陽子線治療の併用療法	6
アスピリン経口投与療法	0
ラメルテオン経口投与療法	7
ネシツムマブ静脈内投与療法	1
高齢者切除可能膀胱癌に対する術前ゲムシタビン＋S-1療法と術前ゲムシタビン＋ナブパクリタキセル療法	0
先進医療の種類の合計数	13
取扱い患者数の合計(人)	32

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(胸部、腹部等の操作によるもの)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 胸腔鏡下手術は、食道がんのある「胸部」だけではなく「頸部」「腹部」も手術対象とする高侵襲な開胸手術と比較して、体の傷がより最小となる低侵襲なものであり、手術の負担・術後の痛みの軽減、より精緻で機能温存に配慮したものである。			
医療技術名	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	取扱患者数	89
当該医療技術の概要 経内視鏡的に高周波切除器を用いて病変の周囲を全周性に切開し、粘膜下層を剥離することにより、最大径が2cmから5cmの早期癌又は腺腫に対して、病変を含む範囲を一括で切除する。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	142
当該医療技術の概要 腹腔鏡による肝切除は近年デバイスの進歩により安全性が増してきており、従来の開腹手術と比較し根治性を保ったうえでより低侵襲な手術が施行可能である。病変が肝臓の左葉外側区域や下区域の表面にある場合は、腹腔鏡下肝切除術に好ましい条件である。また後区域の腫瘍に対しては半腹臥位にて安全な手術が可能となっている。			
医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部切除	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 腹腔鏡による腓体尾部切除術は現在腓低悪性度腫瘍に保険収載され一部の施設で行われている。デバイスの進歩により術後腓液瘻もほとんど起こらず、高い安全性のもと積極的な導入が進んでいる。			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	240
当該医療技術の概要 手術用ロボット(ダ・ヴィンチ:da Vinci)の支援下に行われる腹腔鏡下根治的前立腺摘除術。ダ・ヴィンチは医師が手術時に見る内視鏡画面が3Dになっていて、さらに視野を拡大することができる。また、鉗子の動きも細かく、自由度が高いためより繊細で正確な手術を行うことが可能。根治性、尿禁制(尿失禁がない状態)を含む機能温存においても優れている。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 ロボット支援下前立腺全摘除術はお腹に小さな穴をあけてお腹の中で開放手術(下腹部(臍下～恥骨まで)の切開を行う)と同様の手術を行うことで、従来の開腹手術に比較しより精密な手術操作が可能のため術中術後の合併症が少ない、出血量が少ないなどの多くの利点がある。			
医療技術名	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(頸、胸、腹部操作・手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 胸腔鏡手術では、手術鉗子の操作性に制限があるため、胸の中の重要な臓器に挟まれた食道とその周囲のリンパ節を切除することにおいて、ロボット手術の導入が望まれており、特に、声帯を動かす反回神経の周囲にあるリンパ節の切除において、ロボット手術の多関節鉗子による繊細な動きが可能となることより、確実なリンパ節郭清が行うことができかつ声帯麻痺などの合併症の低減につながる。			
医療技術名	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除、1肺葉超・手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	53
当該医療技術の概要 ロボット支援下肺葉切除術では、側胸部に4cm程度の小開胸創の他に、1cm程度のポートを4箇所において手術操作を行い、特にリンパ節郭清などの精緻な操作において、3D両眼視下に多関節鉗子を使用することができるロボット支援下手術は大変有効である。			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	66
当該医療技術の概要 胃がん手術において切除するリンパ節は、胃の周囲にある重要な血管や胃の背面にあるすい臓の周りにあり、血管やすい臓を傷つけることなく、完全にとりきることが重要なため、通常の腹腔鏡下手術では熟練が必要な手技となるが、ダビンチを使用することで、血管・すい臓をきれいに残しつつ確実にリンパ節を切除することが容易になる。			

医療技術名	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	52
当該医療技術の概要 ダビンチはその高解像度3D視野・多自由度鉗子・手振れ防止機能などの良好な操作性を兼ね備えており、腹腔鏡に比較して正確で迅速な腫瘍切除が可能で、切除面の縫合も極めて容易となることから、腫瘍部分を切除する際に行う腎血流遮断時間の短縮につながるとされている。腎血流遮断時間の短縮は術後腎機能の保持に結びつくといわれており、さらに正確な腫瘍切除により癌細胞の取り残しが予防できること・確実な腎臓の実質の縫合が可能となることから術後腎出血・尿路外溢流・仮性動脈瘤の頻度が低くなることなど、患者メリットが大きい。			
医療技術名	子宮附属器腫瘍摘出術(手術用支援機器を用いるもの)	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 本術式は従来の開腹手術と比較して低侵襲であり、さらにロボット手術の特徴として画質が非常に良く毛細血管まで確認しながら手術できるため、腹腔鏡手術と比較しさらに出血量を抑えられ、またロボットアームは関節の自由度が拡大するためより高い精度の手術を提供できるなど、患者メリットが大きい。			
医療技術名	光免疫療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 光免疫療法は、光に反応する薬を投与し、薬ががんに十分集まったところでがんに対してレーザー光をあてることで治療する新しいがん治療法であり、「切除不能な局所進行又は局所 再発の頭頸部癌」に対する治療として2020年9月に承認された。 光免疫療法用の薬はがん細胞の抗体に集まる性質を持つ光に反応する物質で、この薬を点滴投与すると1日程度で徐々にがんに集まり、そこにレーザー光を当てると薬が反応することでがん細胞が破裂し死滅するが、正常細胞はこの薬がほとんどつかず、レーザー光を当ててもダメージを受けないので治療部位以外での副作用はなく、患者メリットが大きい。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	12
取扱い患者数の合計(人)	715

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	パーキンソン病	1	56		
2	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	1	57		
3	再生不良性貧血	3	58		
4	特発性血小板減少性紫斑病	2	59		
5	クローン病	1	60		
6	潰瘍性大腸炎	7	61		
7	ファンコニ貧血	1	62		
8			63		
9			64		
10			65		
11			66		
12			67		
13			68		
14			69		
15			70		
16			71		
17			72		
18			73		
19			74		
20			75		
21			76		
22			77		
23			78		
24			79		
25			80		
26			81		
27			82		
28			83		
29			84		
30			85		
31			86		
32			87		
33			88		
34			89		
35			90		
36			91		
37			92		
38			93		
39			94		
40			95		
41			96		
42			97		
43			98		
44			99		
45			100		
46			101		
47			102		
48			103		
49			104		
50			105		
51			106		
52			107		
53			108		
54			109		
55			110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	7
合計患者数(人)	16

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算2
・診療録管理体制加算1	・データ提出加算2・4
・医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・入退院支援加算2
・急性期看護補助体制加算 25対1(5割以上)	・認知症ケア加算1
・夜間100対1急性期看護補助体制加算	・(地域連携診療計画加算)
・夜間看護体制加算	・(入院時支援加算)
・看護補助体制充実加算	・(総合機能評価加算)
・看護職員夜間配置加算1(12対1)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・地域加算	・排尿自立支援加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料3
・重症者等療養環境特別加算	・緩和ケア病棟入院料1
・無菌治療室管理加算2	
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	
・緩和ケア診療加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・がんゲノム拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1(指導強化加算)	
・患者サポート体制充実加算	
・報告書管理体制加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・術後疼痛管理チーム加算	
・後発医薬品使用体制加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・HPV核酸検出、HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・がん患者指導管理料イ	・国際標準検査管理加算
・がん患者指導管理料ロ	・遺伝カウンセリング加算
・がん患者指導管理料ハ	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・がん患者指導管理料ニ	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・外来緩和ケア管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・外来放射線照射診療料	・経気管支凍結生検法
・外来腫瘍化学療法診療料1	・画像診断管理加算3
・連携充実加算	・ポジトロン断層撮影
・ニコチン依存症管理料	・ポジトロン・コンピュータ断層複合撮影
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・CT撮影
・がん治療連携計画策定料	・MRI撮影
・がん治療連携管理料	・大腸CT撮影加算
・外来排尿自立指導料	・乳房MRI撮影加算
・薬剤管理指導料	・頭部MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算1
・がんゲノムプロファイリング評価提供料	・無菌製剤処理料
・造血器腫瘍遺伝子検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・遺伝学的検査	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)
・骨髄微小残存病変量測定	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・BRCA1/2遺伝子検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・がんゲノムプロファイリング検査	・がん患者リハビリテーション料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・リンパ浮腫複合的治療料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・集団コミュニケーション療法料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)
・センチネルリンパ節加算	・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)	・胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術	・小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算	・結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・仙骨神経刺激装置植込術(便失禁)	・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下甲状腺部分切除	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
・腺腫摘出術	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術
・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)	・腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・肺悪性腫瘍手術{壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うものに限る)}	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性手術(子宮頸がんに限る。)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)	・遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)	・輸血管理料Ⅰ
・胃瘻造設術	・輸血適正使用加算
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・胆管悪性腫瘍手術{膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る}	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下肝切除術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・周術期薬剤管理加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・高エネルギー放射線治療
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・粒子線治療
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・粒子線治療適応判定加算
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・粒子線治療医学管理加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡支援機器を用いるもの)(外陰、会陰)	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡支援機器を用いる場合)	・悪性腫瘍病理組織標本加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	5回／年	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	5例
	剖検率(%)	0.79%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意思決定支援の実践に資する簡便で効果的な支援プログラムの開発に関する研究	小川 朝生	精神腫瘍学開発分野	12,310,581	補	厚生労働省
がん診療連携拠点病院等における緩和ケアの質の向上に資する実施調査の実装、及びがんと診断された時からの緩和ケアの更なる推進に資する研究	小川 朝生	精神腫瘍学開発分野	7,280,000	補	厚生労働省
がん患者のディーセントワーク実現のための就労継続・職場復帰プログラムの実用化研究	土井 俊彦	先端医療科	9,360,000	補	厚生労働省
がん診療連携拠点病院等の施設間の支持療法の均てん化の実現に資する研究	全田 貞幹	放射線治療科	10,400,000	補	厚生労働省
実装を視野に入れたがん患者の精神心理的な支援に関する診療ガイドラインの開発研究	小川 朝生	精神腫瘍学開発分野	1,334,951	補	厚生労働省
国内外の治験をとりまく環境に係る最新の動向調査研究	佐藤 暁洋	臨床研究支援部門 研究企画推進部	5,613,000	補	厚生労働省
不適切事案等の比較検討による臨床研究の質の向上の実施に係る研究	佐藤 暁洋	臨床研究支援部門 研究企画推進部	1,120,000	補	厚生労働省
がん幹細胞結合ペプチドと高エネルギーα線核種を融合した核医学治療の開発	吉本 光喜	機能診断開発分野	5,070,000	補	文部科学省
女性がん患者の自己管理能力を活性化させる継続支援プログラムの機能と効果の検証	秋元 哲夫	粒子線医学開発分野	13,000	補	文部科学省
ヒト胎児用超高分解能MRIの開発と標準胎児脳高精細アトラスの構築	山口 雅之	機能診断開発分野	13,000	補	文部科学省
進行膵癌に対するがん化学療法の費用対効果に関する検討	川崎 敏克	薬剤部	520,000	補	文部科学省
ローカル操作内視鏡手術支援ロボットの自律レベル向上の研究	西澤 祐吏	大腸外科	650,000	補	文部科学省
肺癌分子標的療法におけるDrug-Tolerant Persister細胞の役割	小林 進	ゲノムTR分野	6,530,800	補	文部科学省
OTN-NIR蛍光によるDDSナノキャリアの動的三次元追跡	藤井 博史	機能診断開発分野	260,000	補	文部科学省
二重特異性がん治療抗体の革新的プロドラッグ化デザインの開発	安永 正浩	新薬開発分野	780,000	補	文部科学省
非造影・造影高精細CT画像を融合した早期肺がんの定量的診断の高度化	青景 圭樹	呼吸器外科	260,000	補	文部科学省
リゾリン脂質代謝酵素Gdpd3によるがん幹細胞のリポクオリティ制御	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	650,000	補	文部科学省
人サービスにおける共創価値は音声非言語情報から測定が可能か	小杉 和博	緩和医療科	1,040,000	補	文部科学省
難治性固形癌予後改善に資する間質バリアを克服するための新規放射免疫療法戦略の開発	安永 正浩	新薬開発分野	1,170,000	補	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
薬物療法後のがん細胞再増殖を規定するがん微小環境の研究	石井 源一郎	病理・臨床検査科	7,553,181	補	文部科学省
進行がん患者への新たな心理的支援法開発に向けた行動活性化療法のランダム化比較試験	小川 朝生	精神腫瘍学開発分野	650,000	補	文部科学省
近赤外分光イメージングによる組織深部病変の可視化	竹下 修由	大腸外科	650,000	補	文部科学省
新規CDC7キナーゼ阻害剤TAK-931の併用療法開発に向けた橋渡し研究	大橋 紹宏	ゲノムTR分野	4,290,000	補	文部科学省
生体内でキメラ抗原受容体T細胞機能を制御する細胞製剤の開発	植村 靖史	免疫療法開発分野	5,070,000	補	文部科学省
がん抑制遺伝子PHLDA3による臓器を超えた神経内分泌腫瘍抑制メカニズムの解明	小嶋 基寛	臨床腫瘍病理分野	313,727	補	文部科学省
がん組織の空間的マルチスケール解析による免疫監視と免疫寛容制御機構の解明	設楽 紘平	消化管内科	1,300,000	補	文部科学省
治療抵抗性大腸癌サブタイプにおける新規ドライバー遺伝子の同定と治療法の開発	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	260,000	補	文部科学省
抗体薬物複合体における糖鎖構造の役割の解明と高機能化	安永 正浩	新薬開発分野	260,000	補	文部科学省
超微細気泡を用いた虚血再灌流障害の軽減方法の確立	西澤 祐吏	大腸外科	65,000	補	文部科学省
高感度γ線コンプトンカメラ技術の医療現場への実践的展開	加納 大輔	薬剤部	65,000	補	文部科学省
マイクロサテライト高度不安定性がんの免疫回避メカニズム解明	川添 彬人	消化管内科	455,000	補	文部科学省
大規模トランスクリプトームからの自律的知能獲得システム基盤の開発	飯田 直子	医薬品開発推進部門医薬品開発推進部	109,202	補	文部科学省
膀胱癌の発癌・悪性化過程における腫瘍遺伝子異変と腫瘍免疫応答の関連解明	尾張 拓也	免疫TR分野	1,560,000	補	文部科学省
免疫反応の可視化によるセンチネルリンパ節内転移の画像診断技術の開発	藤井 博史	機能診断開発分野	1,002,822	委	文部科学省
大腸がん細胞の増殖に寄与する新奇膜タンパク質TMEM180の分子機能解明	安西 高廣	新薬開発分野	3,221,193	委	文部科学省
早期食道がんに対するメタボローム解析	坂下 信悟	臨床腫瘍病理分野	454,954	委	文部科学省
肺腺癌multi-omicsデータを用いた、ミトコンドリアの分子病理学的意義探索	坂下 信悟	臨床腫瘍病理分野	2,520,745	委	文部科学省
患者由来オルガノイドを用いた胃癌新規治療標的の探索	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	460,000	委	文部科学省
FGF-FGFR活性化去勢抵抗性前立腺癌オルガノイドの解析による個別化医療の探求	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	330,000	委	文部科学省
がん関連線維芽細胞の精密標的により免疫療法をブーストするナノ治療薬の開発	小嶋 基寛	臨床腫瘍病理分野	533,238	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
術者鉗子もしくは手術工程に連動する子宮マニピュレーターロボットの開発	竹中 慎	手術機器開発室	2,915,106	委	文部科学省
高精細CT・深層学習画像再構成を用いた骨差分ヨード画像の開発	檜山 貴志	放射線診断科	93,917	委	文部科学省
腫瘍局所での制御性T細胞の分化機構の解明	板橋 耕太	免疫TR分野	3,360,573	委	文部科学省
科学放射線耐性を生む食道癌ゲノム・免疫応答のクローン進化の解明	平田 秀成	放射線治療科	192,592	委	文部科学省
リキッドバイオプシーによる早期肺癌に対する放射線治療後の再発予測に関する研究開発	中村 匡希	放射線治療科	1,090,789	委	文部科学省
放射線誘導免疫応答におけるnon-coding RNA pathwayの解析	影山 俊一郎	粒子線医学開発分野	1,644,420	委	文部科学省
1細胞解析を用いた放射線治療による腫瘍微小環境、免疫応答変化の解析	北條 秀博	放射線治療科	2,964,570	委	文部科学省
造血器悪性腫瘍における活性化制御性T細胞の制御機構解明	湯田 淳一郎	血液腫瘍科	2,290,586	委	文部科学省
遺伝カウンセリングにおけるマンガ冊子ツールを活用した家族歴聴取の質向上の検討	平岡 弓枝	遺伝子診療部門	391,537	委	文部科学省
BRCA2非翻訳領域上に存在する新規生殖細胞突然変異のメカニズム解析	大橋 紹宏	ゲノムTR分野	6,506,872	委	文部科学省
ミトコンドリアDNAをターゲットとした免疫原性を高める新たな治療戦略	田中 広祐	免疫TR分野	2,116,891	委	文部科学省
シングルセル解析による腫瘍微小環境PD-1陽性制御性T細胞の分化メカニズムの解明	入江 拓磨	免疫TR分野	1,715,600	委	文部科学省
転移性大腸がんに対する、NK細胞浸潤を介した新規治療法の樹立	奥村 元紀	免疫TR分野	2,283,408	委	文部科学省
HER2陽性乳癌における抗原特異的B細胞の働き	藤井 里圭	免疫TR分野	1,492,950	委	文部科学省
免疫療法の効果持続に関わる因子の基盤的検討	小山 正平	免疫TR分野	2,084,744	委	文部科学省
リンカー技術と抗体工学を駆使したアスタチン-211の腫瘍特異的送達方法の開発	高島 大輝	新薬開発分野	2,340,000	委	文部科学省
胃癌の病理学のおよび分子生物学的腫瘍内不均一性に関する検討	桑田 健	遺伝子診療部門	1,183,994	委	文部科学省
研究用バイオバンクにおける周産期試料と医療情報の集積・利用に関するELSIの検討	遠矢 和希	倫理審査事務室	843,194	委	文部科学省
乳癌の体腔液中/循環血液中癌細胞と脂肪幹細胞との3D共培養及び薬効試験技術の開発	向原 徹	乳腺・腫瘍内科	645,721	委	文部科学省
Berberineによる抗腫瘍免疫増強効果の機構解明と効果的な併用免疫療法の開発	塚本 信夫	免疫療法開発分野	357,651	委	文部科学省
陽子線治療における可変RBEの生物学的評価と治療計画への応用に関する研究	秋元 哲夫	粒子線医学開発分野	797,592	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肺小細胞がんにおけるプリン塩基サルベージ経路を介した細胞増殖制御機構の解明	牧野嶋 秀樹	TI分野	3,363,243	委	文部科学省
深層学習によるゲル線量計の三次元測定の実現による追尾照射の線量不確かさの影響評価	橘 英伸	粒子線医学開発分野	272,368	委	文部科学省
III型IFN産生ミエロイド細胞を用いた肺がん治療法の開発	福田 恭子	免疫療法開発分野	1,430,000	委	文部科学省
時間分解分光NIRSを用いたせん妄の前頭葉機能評価と病態に関する検討	小川 朝生	精神腫瘍学開発分野	3,283,380	委	文部科学省
内視鏡下手術支援ローカル操作助手マニピュレータ	西澤 祐吏	大腸外科	260,038	委	文部科学省
がん治療効果予測に資する病理学的指標の探索と最適化	石井 源一郎	東病院臨床検査部	42,800	委	文部科学省
超高線量率陽子線治療の実現へ向けた実験環境の構築と臨床応用への検討	堀田 健二	粒子線医学開発分野	2,260,000	委	文部科学省
高精度放射線治療における新たな三次元線量分布評価法の開発と臨床的有効性	高橋 良	放射線品質管理室	280,000	委	文部科学省
頭頸部IMRTにおける適応放射線治療を実施する判断基準の定量的評価	良知 寿哉	放射線治療技術部	2,062,023	委	文部科学省
術中迅速MRI画像診断法の開発	池田 公治	大腸外科	650,068	委	文部科学省
早期胃がんの機能的特徴を活用したAI内視鏡画像診断	矢野 友規	消化管内視鏡科	460,000	委	文部科学省
がんの分子サブタイプの制御に関わるがん線維芽細胞のがん腫横断的解析	滝 哲郎	病理・臨床検査科	2,738,720	委	文部科学省
細胞分化を誘導する新規抗がん剤の開発	小林 進	ゲノムTR分野	7,125,251	委	文部科学省
早期消化管癌組織のRNA発現解析によるリンパ節転移予測因子の探索	村野 竜朗	消化管内視鏡科	955,884	委	文部科学省
ゾレドロン酸併用 γ δ T細胞免疫治療のバイオマーカー探索	泉 大樹	呼吸器内科	844,310	委	文部科学省
医学研究におけるジョイントモデリングに基づく予後予測手法の研究開発	三角 俊裕	データサイエンス部	1,580,000	委	文部科学省
染色体不安定性を有する細胞の細胞死回避メカニズムの解明	山盛 智子	ゲノムTR分野	2,790,057	委	文部科学省
全国がんctDNA解析プロジェクトを活用した生殖細胞系列BRCA1／2変異の同定	中村 能章	消化管内科	2,048,000	委	文部科学省
強度変調陽子線治療に対するActual線量分布に基づくNTCPモデルの構築	馬場 大海	放射線品質管理室	1,300,000	委	文部科学省
堅牢性の高い強度変調放射線治療の臨床実現に向けた医学的および物理的検討	茂木 佳菜	放射線品質管理室	780,000	委	文部科学省
非小細胞性肺癌リンパ節転移診断能向上のための3次元Radiomics解析	佐々木 智章	放射線診断科	780,000	委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開発と実践知の可視化	山花 令子	看護部	32,250	委	文部科学省
中小規模病院看護師へのフィジカルイグザミネーション学習機会の提供方法の開発と評価	山花 令子	看護部	2,575,627	委	文部科学省
Leading edgeのGTP代謝コンパートメントによる新規細胞遊走制御の解明	鎌田 諒	ゲノムTR分野	1,950,000	委	文部科学省
地域共生社会の実現に資する医療ソーシャルワーク管理のあり方に関する研究	坂本 はと恵	サポーターズケア室	299,000	委	文部科学省
AIを用いた大腸癌術後再発早期診断のための医療機器プログラムの開発	坂東 英明	消化管内科	2,210,000	委	文部科学省
がんゲノム検査の運用時期とがん種ごとの検査の位置付けの最適化の検討	今井 光穂	医薬品開発推進部門医薬品開発推進部	3,418,812	委	文部科学省
頭頸部扁平上皮癌化学放射線治療における口腔内・腸内細菌叢の統合解析と病態の理解	榎田 智弘	頭頸部内科	2,210,000	委	文部科学省
鎖肛術後排便障害に対するスマートフォンを用いたバイオフィードバック装置の開発	西澤 祐吏	大腸外科	130,000	委	文部科学省
新規ヒトACTH細胞の作出と下垂体難病治療への応用	清野 透	先端医療開発センター	130,000	委	文部科学省
放射性同位元素-DTPA-siRNAの合成、合成物の純度分析	加納 大輔	薬剤部	130,000	委	文部科学省
消化管がんオルガノイドを用いた抗がん剤耐性獲得機構の解析	坂本 直也	臨床腫瘍病理分野	1,040,000	委	文部科学省
肺肉腫様癌に対するPD-1阻害薬治療の最適化と耐性機序の解明	板橋 耕太	免疫TR分野	390,000	委	文部科学省
放射線治療CT画像に起因する線量誤差定量化及びデュアルエネルギーCTの多施設評価	中市 徹	放射線品質管理室	1,474,680	委	文部科学省
肺がん局所におけるCD8陽性細胞の疲弊化メカニズムの解明	板橋 耕太	免疫TR分野	130,000	委	文部科学省
腫瘍MYC発現による代謝環境の変化が抗腫瘍免疫応答に及ぼす影響の解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	900,000	委	公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団
腫瘍MYC強発現が抑制性細胞集団を介し抗腫瘍免疫逃避を導く機構の詳細解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	507,893	委	公益財団法人大和証券ヘルス財団
肝臓腫瘍における代謝環境に着眼したがん治療耐性機構の解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人SGH財団
低酸素誘導性腫瘍が癌免疫治療抵抗性を導く機構の本態解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人安田記念医学財団
血管新生経路阻害剤併用がん免疫療法の治療耐性機構の本態解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
食道がんに対するがん免疫治療の新規バイオマーカー探索とその耐性機序の克服	熊谷 尚悟	免疫TR分野	800,000	委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
臓器特異的な腫瘍浸潤制御性T細胞の分化過程の解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	3,000,000	委	公益財団法人MSD生命科学財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
制御性T細胞の乳酸代謝に着眼した新規がん免疫治療戦略への応用	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人興和生命科学振興財団
腎細胞がんに対するがん免疫治療の新規バイオマーカー探索とその耐性機序の解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人臨床薬理研究振興財団
腎盂がんの進化の経過における免疫逃避機構の全貌解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団
子宮体がん進展ががん免疫応答を抑圧する機構の詳細解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人神澤医学研究振興財団
腫瘍局所における乳酸代謝を標的とした新規免疫療法の開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,999,560	委	公益財団法人高松宮妃癌研究基金
臓器固有腫瘍浸潤リンパ球のcell fateを決定づける因子の同定	熊谷 尚悟	免疫TR分野	632,963	委	公益財団法人日立財団
胆管癌における胆汁酸代謝に着眼した新規治療開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人内藤記念科学振興財団
マルチキナーゼ阻害剤併用免疫療法に対する耐性機序の克服	熊谷 尚悟	免疫TR分野	929,364	委	公益財団法人中富健康科学振興財団
認知症の人の医療における意思決定支援の実態把握と支援の質の向上を目指した手引きの開発	小川 朝生	精神腫瘍学開発分野	2,499,120	委	公益財団法人三菱財団
大腸がんに対する、NK細胞浸潤を介した新規治療樹立	奥村 元紀	免疫TR分野	1,684,234	委	公益財団法人上原記念生命科学財団
がん患者のプレハビリテーションとして利用できる筋力トレーニング動画の開発	小西 信子	リハビリテーション科	621,520	委	公益財団法人ひと・健康・みらい研究財団
制御性T細胞表面に発現するチェックポイント分子の発現機構の詳細解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人花王芸術・科学財団
ミトコンドリアDNAをターゲットとした免疫原性を高める新たな治療戦略	田中 広祐	ゲノムTR分野	2,000,000	委	公益財団法人高松宮妃癌研究基金
免疫セマフォリンによる抗腫瘍T細胞の機能制御に関する臨床検体を用いた検討	小山 正平	免疫TR分野	1,880,012	委	公益財団法人高松宮妃癌研究基金
食道癌ゲノム進化に基づく血漿TP53変異に注目した化学放射線療法後の微小残存病変の解析	平田 秀成	放射線治療科	1,220,317	委	公益社団法人日本医学放射線学会
肺がんにおけるヒストンアセチル化酵素の役割	小林 進	ゲノムTR分野	1,502,373	委	公益財団法人高松宮妃癌研究基金
SCRUM Japan研究における患者・市民参画型臨床研究の基盤構築	三木 いずみ	バイオバンク・TR支援室	500,000	委	公益財団法人日本対がん協会
不妊症治療の成績向上に貢献する精細管MRイメージングの開発	山口 雅之	機能診断開発分野	143,545	委	公益財団法人武田科学振興財団
子どもを持つがん患者のオンラインピアサポートグループ参加による臨床的効果の探索	小杉 和博	緩和医療科	1,126,984	委	公益財団法人武田科学振興財団
がんの間質をターゲットとする新規抗体医薬開発	安永 正浩	新薬開発分野	204	委	公益財団法人武田科学振興財団
癌細胞における染色体不安定性が引き起こす細胞内ストレス反応	大橋 紹宏	ゲノムTR分野	782,961	委	公益財団法人武田科学振興財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性がんの間質を標的にしたAntibody-drug conjugateの開発	安永 正浩	新薬開発分野	136,676	委	公益財団法人 高松宮妃癌研究基金
放射線皮膚炎におけるBlinded objective grading systemの構築を含む客観的評価法に関する研究	全田 貞幹	放射線治療科	171,973	委	公益財団法人 日本対がん協会
外来治療中の患者・家族の療養生活の質の向上を目指したPatient Reported Outcome(PRO)を用いたコーディネートプログラムの開発	小川 朝生	精神腫瘍学開発分野	410,960	委	公益財団法人 日本対がん協会
膀胱がんのゲノム異常に着眼した新規がん免疫治療の開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人 日本対がん協会
内視鏡切除後pT1a-MMかつ脈管侵襲陰性の食道扁平上皮癌の長期予後に関する多施設共同後向き観察研究	門田 智裕	消化管内視鏡科	499,170	委	公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団
膵がん治療を目的とした抗体抗がん剤複合体の開発と改良	津村 遼	新薬開発分野	947,102	委	公益財団法人 武田科学振興財団
肝胆道系腫瘍におけるがん免疫療法耐性機序に関する免疫代謝学的検討	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人 小林がん学術振興会
尿路上皮がんの発癌および進展過程における免疫逃避メカニズムの解明	小山 正平	免疫TR分野	4,000,000	委	公益財団法人 三菱財団
非アルコール性脂肪性肝炎関連肝細胞癌が発癌過程で備える免疫逃避機構の詳細解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団
肝胆道系腫瘍における免疫抑制機構に関する詳細検討	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人 武田科学振興財団
新型コロナウイルス感染拡大がもたらした未成年の子どもを持つがん患者における孤独感と社会的孤立、精神的健康の変化を明らかにする実態調査	小杉 和博	緩和医療科	720,000	委	公益財団法人 笹川保健財団
AIを用いたMSI-high腫瘍のがん免疫治療耐性機構の詳細解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人 大樹生命厚生財団
癌細胞における染色体不安定性が引き起こす細胞内ストレス反応	大橋 紹宏	ゲノムTR分野	5,000,000	委	公益財団法人 武田科学振興財団
がん患者における在宅医療推進のためのアンケート調査	久保 絵美	緩和医療科	1,470,000	委	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
心房細動の治療として最適化された非侵襲的放射線治療アブレーションの開発	橘 英伸	粒子線医学開発分野	1,000,000	委	公益財団法人 大和証券ヘルス財団
ミトコンドリアストレスによるがん免疫応答機構	田中 広祐	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人 SGH財団
人工知能を用いた心電図解析によるがん治療関連心機能障害の発症予測と早期診断法の確立	田尻 和子	循環器科	1,000,000	委	公益財団法人 大和証券ヘルス財団
放射線治療に対するExceptional?responseを規定するゲノム異常の解明	平田 秀成	放射線治療科	1,000,000	委	公益財団法人 安田記念医学財団
頭頸部がん放射線治療後の晩期頸部皮膚軟部組織障害に対する支持療法としての脂肪注入術の有用性に関する研究	東野 琢也	形成外科	300,000	委	公益財団法人 日本対がん協会
診断薬の開発に向けたIgM抗体の高純度精製法の確立	安西 高廣	新薬開発分野	500,000	委	公益財団法人 ホクト生物科学振興財団
ミトコンドリアストレスによるがん免疫応答機構の解明	田中 広祐	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人 アステラス病態代謝研究会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抑制性の免疫細胞集団に着眼した転移性脳病変に対する新規治療開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人アステラス病態代謝研究会
自己免疫性心筋炎の発症と進展における翻訳制御因子EIF4Eの役割の検討	田尻 和子	循環器科	1,000,000	委	公益財団法人先進医薬研究振興財団
ミトコンドリアDNAを標的としたがん免疫治療の開発	田中 広祐	免疫TR分野	1,000,000	委	公益財団法人興和生命科学振興財団
抗体改変技術により偽陽性を低減させた高精度エクソソーム検出法の開発	安西 高廣	新薬開発分野	2,500,000	委	公益財団法人精密測定技術振興財団
がんの根治性と機能温存を両立させる内視鏡手術剥離ナビの開発	伊藤 雅昭	大腸外科	10,000,000	委	公益財団法人テルモ生命科学振興財団
抑制性の免疫細胞集団に着眼した転移性脳病変に対する新規治療開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
小細胞肺癌における抗腫瘍免疫応答の抑制機構の全貌解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	1,500,000	委	公益財団法人中外創薬科学財団
脳腫瘍微小環境において神経細胞が導く抗腫瘍免疫応答抑制機構に着眼した新規がん免疫治療開発	熊谷 尚悟	免疫TR分野	500,000	委	公益財団法人日本脳神経財団
転移性骨腫瘍が導くがん免疫治療抵抗性の詳細解明	熊谷 尚悟	免疫TR分野	2,000,000	委	公益財団法人上原記念生命科学財団
非対称糖鎖構造を持つIgG作製とその機能評価	安永 正浩	新薬開発分野	2,499,900	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
チロシンキナーゼ阻害剤耐性肺腫瘍におけるUTXの役割	小林 進	ゲノムTR分野	1,425,000	委	独立行政法人日本学術振興会
がん根絶を目指したがんmRNAワクチンの開発	中面 哲也	免疫療法開発分野	39,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
免疫応答モニタリングによるがん免疫の全容理解に基づく新規層別化マーカーの開発	西川 博嘉	免疫TR分野	199,900,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
外科手術のデジタルトランスフォーメーション:情報支援内視鏡外科手術システムの開発	伊藤 雅昭	大腸外科	209,559,375	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
非浸潤性乳がんの治療精密化に資する、多細胞遺伝子ネットワークに基づく新規リスク診断法の開発	大西 達也	乳腺外科	650,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
超高感度CE-MS 技術に基づくミクロスケール薬物動態評価プラットフォーム	小金丸 茂博	先端医療科	13,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
臓器・組織の特異性に着目した新規免疫複合療法の開発	西川 博嘉	免疫TR分野	14,900,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
頭頸部癌化学放射線療法における予防領域照射の線量低減に関する ランダム化比較試験	全田 貞幹	放射線治療科	1,300,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌(pT1癌)に対するカペシタビン併用放射線療法の単群検証的試験(JCOG1612)	池松 弘朗	内視鏡機器開発分野	11,680,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
頭頸部悪性腫瘍切除・遊離組織移植術の手術前ステロイド投与の有用性を検証する第Ⅲ相多施設共同プラセボ対照二重盲検無作為化比較試験	松浦 一登	頭頸部外科	6,512,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	中村 匡希	放射線治療科	240,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
BRAF V600E変異型切除可能大腸癌遠隔転移に対する個別化周術期治療の医師主導治験の実施	小林 信	肝胆膵外科	30,169,659	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
Borderline resectable膵癌の標準的治療確立を目指した研究開発	池田 公史	肝胆膵内科	640,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
腸内マイクロバイオーーム制御による次世代創薬技術の開発／課題1(3):リバーストランスレーショナル創薬に向けた包括的マイクロバイオーーム制御基盤技術開発ーマイクロバイオーーム創薬エコシステム構築に向けてー	小山 正平	免疫TR分野	93,600,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
SCRUM-Japanの基盤を活用した血液循環腫瘍DNAスクリーニングに基づくFGFR遺伝子異常を有する難治性の治癒切除不能な進行・再発固形がんに対するTAS-120のバスケット型医師主導治験	吉野 孝之	消化管内科	744,310,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
SCRUM-Japanの基盤を活用したNFE2L2遺伝子変異を有する喫煙関連扁平上皮がんに対するsapanisertib(TAK-228)の医師主導治験	岡野 晋	頭頸部内科	60,771,559	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
神経内分泌関連腫瘍におけるがん免疫治療耐性機序の解明と治療展開	熊谷 尚悟	免疫TR分野	10,010,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
EPHB4受容体高発現悪性固形腫瘍を対象とした非ウイルス遺伝子改変CAR-T細胞療法の第一相医師主導治験	中面 哲也	免疫療法開発分野	15,636,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療開発を目指した研究	仁保 誠治	呼吸器内科	62,725,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
酸素飽和度イメージング内視鏡を用いた免疫チェックポイント阻害剤効果予測の研究	矢野 友規	消化管内視鏡科	6,900,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
SCRUM-Japan GI-SCREEN基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスクリーニングに基づくHER2遺伝子異常を有する固形がんに対するDS-8201aの医師主導治験	中村 能章	消化管内科	1,300,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者進行非小細胞肺癌/膵がんに対する早期栄養・運動介入とアナモレリン塩酸塩の併用療法の多施設共同ランダム化第二相試験	光永 修一	肝胆膵内科	1,430,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
難治性胃がんを対象とした新規FROUNT特異的阻害薬の開発研究	中面 哲也	免疫療法開発分野	10,400,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
ctDNAに基づく大腸がん術後再発高リスク群予測・同定モデルの開発と術後化学療法抵抗性の解明	吉野 孝之	消化管内科	260,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
肺葉切除高リスク臨床病期IA期非小細胞肺癌に対する区域切除と楔状切除のランダム化比較試験	青景 圭樹	呼吸器外科	500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
難治性呼吸器腫瘍等の全ゲノム配列データおよび臨床情報等の収集と解析に関する研究	後藤 功一	呼吸器内科	2,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
Stage I/II舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するための多施設共同臨床試験	林 隆一	頭頸部外科	1,430,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
局所進行直腸癌に対する術前ctDNA 検査をコンパニオン診断薬とする術前治療最適化技術の開発に関する研究	小谷 大輔	消化管内科	6,500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
SCRUM-Japanの基盤を活用したNFE2L2遺伝子変異を有する喫煙関連扁平上皮がんに対するsapanisertibのコンパニオン診断薬開発に関する臨床性能試験	藤澤 孝夫	臨床研究支援部門 トランスレーショナルリサーチ推進部	10,010,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
がん患者の身体機能やQOLを著明に低下させ在宅医療の支障となる化学療法誘発性末梢神経障害に対する交流磁界を用いた非侵襲的な、日本初・世界初の新規治療開発のための医師主導治験	久保 絵美	緩和医療科	18,763,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
PI3K阻害剤のプロドラッグ化による新規肉腫治療薬開発に関する研究	小山 正平	免疫TR分野	5,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
モダリティ別蛍光プローブ・イメージング法とがんモデルの選択及び最適化による薬物動態評価法の開発	安永 正浩	新薬開発分野	32,110,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
肺尖部胸壁浸潤癌に対する化学放射線療法後の術前後デュルバルマブもしくはデュルバルマブ維持療法を併用した集学的治療に関する単群検証的試験 (ICOG1807C)	坪井 正博	呼吸器外科	32,400,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	田原 信	頭頸部内科	3,048,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
EGFR 遺伝子変異陽性の進行非小細胞肺癌におけるEGFR 阻害薬耐性機序 (C797S 耐性変異) を克服する新規治療法の確立を目指した研究	後藤 功一	呼吸器内科	31,180,207	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
頭頸部扁平上皮癌に対する強度変調陽子線治療の実用化に向けた技術開発と有効性検証	秋元 哲夫	粒子線医学開発分野	17,200,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
有痛性骨転移患者の疼痛制御のための即効性を有する新規治療開発	荒井 保典	放射線診断科	7,280,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	木下 敬弘	胃外科	520,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
がん認識抗体とCAR-T細胞による難治性B細胞性悪性リンパ腫を対象とした第 I 相医師主導臨床試験	中面 哲也	免疫療法開発分野	60,600,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
臨床病期I/II期非小細胞肺癌におけるリンパ節郭清の縮小化の治療的意義を検証するランダム化比較試験	青景 圭樹	呼吸器外科	100,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
特発性肺線維症 (IPF) 合併臨床病期I期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第III相試験	青景 圭樹	呼吸器外科	500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
LC-SCRUMレジストリを用いた形態学的バイオマーカーデジタルAI判定機器の治療効果予測性能検証試験	石井 源一郎	東病院臨床検査部	6,400,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
SCRUM-Japanの基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスクリーニングに基づくBRCA変異を有する胆道がんに対する医師主導治療	吉野 孝之	消化管内科	27,300,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する機能温存手術の確立に関する研究	青景 圭樹	呼吸器外科	200,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究	伊藤 雅昭	大腸外科	500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	松浦 一登	頭頸部外科	520,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
CCR4を標的としたキメラ抗原受容体遺伝子改変T細胞療法の非臨床試験	中面 哲也	免疫療法開発分野	1,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
膵臓がんに対する高LETアルファ線核医学治療の最適化に資する研究	藤井 博史	機能診断開発分野	10,700,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
治療用放射性医薬品の品質・安全性評価に関する研究	藤井 博史	機能診断開発分野	2,600,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
標準的乳がんラジオ波熱焼灼療法開発に係る多施設共同試験	大西 達也	乳腺外科	150,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
光遺伝子/タンパク質工学・DDS・分子イメージングを駆使した次世代抗体療法の開発	安永 正浩	新薬開発分野	9,750,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	細野 亜古	小児腫瘍科	200,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
内視鏡外科手術におけるAI自動技術評価システムの開発	伊藤 雅昭	大腸外科	6,111,950	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
小児およびAYA世代の横紋筋肉腫患者に対するリスク層別化臨床試験実施による標準的治療法の開発	細野 亜古	小児腫瘍科	304,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
CD19陽性悪性リンパ腫に対するpiggyBacトランスポゾン法によるキメラ抗原陽性受容体遺伝子改変自己T細胞の安全性及び有効性に関する第I/II相医師主導試験	南 陽介	血液腫瘍科	1,300,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
がん患者の抑うつ・不安に対するスマートフォン精神療法の最適化研究:革新的臨床試験システムを用いた多相最適化戦略試験	全田 貞幹	放射線治療科	200,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
難治性食道癌におけるPrecision Medicineに資する診断技術開発に関する研究	矢野 友規	消化管内視鏡科	100,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
SCRUM-Japanの基盤を活用したNFE2L2遺伝子変異を有する喫煙関連扁平上皮がんに対するsapanisertib(TAK-228)の医師主導試験	岡野 晋	頭頸部内科	12,704,358	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
BRAF V600E変異型切除可能大腸癌遠隔転移に対する個別化周術期治療の医師主導試験の実施	小林 信	肝胆膵外科	12,927,200	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
SCRUM-Japanの基盤を活用したNFE2L2遺伝子変異を有する喫煙関連扁平上皮がんに対するsapanisertibのコンパニオン診断薬開発に関する臨床性能試験	藤澤 孝夫	臨床研究支援部門 トランスレーショナルリサーチ推進部	8,606,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
日米医学協力計画を基軸とした感染関連がんに関する疾患研究	清野 透	先端医療開発センター	1,916,269	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
新規ドライバー遺伝子であるLTK融合遺伝子陽性の進行非小細胞肺癌に対する個別化治療の開発を目指した研究	葉 清隆	呼吸器内科	59,800,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	秋元 哲夫	粒子線医学開発分野	13,070,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
マルチステークホルダーを擁する支持療法・緩和治療領域における研究手法の標準化に関する研究	全田 貞幹	放射線治療科	7,982,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	伊藤 雅昭	大腸外科	14,210,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	善家 義貴	呼吸器内科	800,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
切除可能な高頻度マイクロサテライト不安定性結腸直腸癌に対して免疫チェックポイント阻害薬を用いた根治治療の有効性・安全性を検討する研究	坂東 英明	消化管内科	40,280,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個別化医療の確立を目指した研究	野崎 要	呼吸器内科	55,320,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
切除可能大腸癌肝転移における血液循環腫瘍DNAを用いた補助化学療法の個別最適化を目的としたproof of conceptのための多施設共同研究	小林 信	肝胆膵外科	33,510,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
GPC3発現手術不能進行・腹膜播種卵巣明細胞腺癌を対象としたヒト同種iPS細胞由来GPC3-CAR 再生自然キラーリンパ球(ILC/NK)の安全性、忍容性および薬物動態を検討する第Ⅰ相臨床試験	中面 哲也	免疫療法開発分野	33,790,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
オピオイド不応の神経障害性疼痛に対するプレガバリンとデュロキセチンの国際共同ランダム化比較試験	小杉 和博	緩和医療科	199,600	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
腸内環境解析による若年発症大腸癌の易羅患性・早期診断バイオマーカーの開発	砂川 弘憲	消化管内視鏡科	2,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	小林 達伺	放射線診断科	100,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
急性期病棟の医療負担を軽減するせん妄対応支援プログラムに関する研究開発	小川 朝生	精神腫瘍学開発分野	32,370,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
がん治療用抗原提示細胞プラットフォームの非臨床試験パッケージ策定研究	植村 靖史	免疫療法開発分野	20,740,200	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
腫瘍浸潤細胞の時間的空間的变化に基づく免疫抑制機構の解明と治療への展開	西川 博嘉	免疫TR分野	19,700,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
ミトコンドリアDNAに着目した免疫原性を高めるKRAS遺伝子変異がんの新たな治療開発	田中 広祐	免疫TR分野	6,500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
転移性病変の腫瘍不均一性が生み出すがん免疫治療抵抗性の克服	熊谷 尚悟	免疫TR分野	11,500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
食道癌術後患者を対象とした外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究	藤田 武郎	食道外科	600,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
がん患者における術後せん妄予防のプレシジョンメディシンの開発	榎戸 正則	精神腫瘍科	2,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス＋ランレオチド併用療法のランダム化第III相試験	小嶋 基寛	臨床腫瘍病理分野	1,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
局所限局性前立腺癌中リスク症例に対する陽子線治療の多施設共同臨床試験と多種の放射線治療モダリティとの比較を可能とする局所限局性前立腺癌に対する強度変調放射線治療の多施設前向き観察研究	秋元 哲夫	粒子線医学開発分野	50,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
シーズA19-05 I型糖尿病を標的にしたIL-7R標的療法の開発	安永 正浩	新薬開発分野	5,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
がん全ゲノム解析の患者還元構築に関する研究	吉野 孝之	消化管内科	36,422,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
悪性胸膜中皮腫に対するAdSOCS3を用いた新規遺伝子治療の医師主導治験に関する研究	小島 隆嗣	医薬品開発推進部門 医薬品開発推進部	12,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
前立腺癌に対するMR画像誘導即時適応定位放射線治療の臨床応用を目指す研究	全田 貞幹	放射線治療科	550,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
血中循環がん細胞と個別化免疫療法で肝がん発症・再発を抑え込む技術の開発	中面 哲也	免疫療法開発分野	32,003,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
医療応用を目指した温度応答性インジェクタブルの開発	吉田 泰之	医療機器開発推進部門 医療機器開発支援部	1,500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
全ゲノム情報を患者に還元するためのゲノム・臨床情報基盤の研究	吉野 孝之	消化管内科	80,000,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
前立腺特異的膜抗原をターゲットにした前立腺癌の画像診断法の確立と実用化に向けた機器開発に関する研究	加納 大輔	薬剤部	650,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
アカデミアにおけるCDISC標準利用促進に関する研究開発	池田 裕弥	臨床研究支援部門 データ管理室	104,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
地域、疾患領域、臨床研究者・支援専門職ネットワークを活用した、QMSの実装に向けたRBAの概念に関する研究者及び研究支援者への教育資材の作成に資する研究	小村 悠	臨床研究支援部門 研究企画推進部 研究推進室／医薬品開発推進部門	1,170,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高性能中分子医薬のスマートデザイン基盤技術開発	安永 正浩	新薬開発分野	1,300,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
肉腫・脳腫瘍などの希少がんを対象としたゲノム解析による予防法・診断法・治療法の開発	坪井 正博	呼吸器外科	998,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
LTK融合遺伝子陽性肺癌の診断法と、治療開発のためのコンパニオン診断薬の確立を目指した研究	泉 大樹	呼吸器内科	10,010,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
シングルセル解析、空間トランスクリプトーム解析、酸素飽和度イメージング内視鏡での酸素飽和度情報を統合したmulti-layer omics dataでの食道表在癌の浸潤メカニズム解明についての研究	山下 大生	消化管内視鏡科	7,800,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
ヒトiPS 細胞由来心筋細胞を用いた抗がん剤の心毒性評価法の開発と国際標準化	全田 貞幹	放射線治療科	600,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
標準化電子ワークシートを核とした分散型臨床試験のシステム・運用両面からの構築	青柳 吉博	臨床研究支援部門 臨床研究推進部システム管理室	24,981,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
骨盤内腫瘍の内視鏡外科手術における術中リアルタイムAIナビゲーションの開発・事業化	塚田 祐一郎	大腸外科	7,800,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高精細内視鏡併用・共焦点レーザー顕微内視鏡を用いた早期胃がんに対する狙撃光学生検の臨床応用と実用化	門田 智裕	消化管内視鏡科	200,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
希少がんならびに難治性がんに対する抗がん剤治療開発を加速させる創薬研究手法に関する研究	古賀 宣勝	実験動物管理室	11,800,500	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
TMEM180を高発現する大腸がんに有効な新規ヒト化抗TMEM180抗体の開発	安永 正浩	新薬開発分野	7,971,050	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
「Cold Tumor to Hot Tumor」をターゲットとした新規抗がん薬開発の基礎検討	大橋 紹宏	ゲノムTR分野	11,033,499	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
抗がん剤による心毒性を改善するデスアシルグレリンの新規受容体同定およびin vitro、in vivoスクリーニング系を用いた心毒性予防・治療薬の創薬開発	上園 保仁	臨床研究支援部門 研究企画推進部支持・緩和研究開発支援室	1,343,599	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
抗体糖鎖の改変技術を駆使したRI標識法の構築	高島 大輝	新薬開発分野	4,119,999	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
AIを用いた食道がん手術における術中反回神経認識(ESOSCAN)の製品化	藤田 武郎	食道外科	9,893,899	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
癒着性小腸閉塞に対する新たな低侵襲治療の開発	砂川 弘憲	消化管内視鏡科	2,999,999	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
がん細胞へのウィルス抗原導?による抗腫瘍免疫応答の再起動	小山 正平	免疫TR分野	1,270,999	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
超多重ガイドRNA/Cas9 nickase搭載一体型アデノウイルスベクターを用いたパピローマウイルス感染病変のゲノム編集治療法の開発	清野 透	先端医療開発センター	2,799,999	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
挿管操作を補助する医療機器の開発研究	橋本 学	麻酔科	10,417,499	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
直腸がん手術支援機器の開発	伊藤 雅昭	大腸外科	495,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
糞便微生物叢を利用したICI治療奏効予測技術の確立	山下 理宇	TI分野	4,999,999	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
イヤホン型ワイヤレス脳波計を活用したAI制御デジタルセデーションの開発	矢野 友規	消化管内視鏡科	4,422,499	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
橋渡し研究プログラム	土原 一哉	TI分野	146,810,183	補	国立研究開発法人科学技術振興機構
国立がん研究センター東病院 臨床研究中核病院整備事業	佐藤 暁洋	臨床研究支援部門 研究企画推進部	162,320,000	補	国立研究開発法人科学技術振興機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がんの診断・治療・緩和におけるアウトカム向上に帰する医療機器創出を目指した拠点整備事業	伊藤 雅昭	大腸外科	25,000,000	補	国立研究開発法人科学技術振興機構
2次化学療法実施中の切除不能膵癌患者におけるElectronic Patient-Reported Outcome (ePRO) を用いたQOL調査研究〔研究名略称: QOL-ePAC〕	光永 修一	肝胆膵内科	55,000	委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
再発危険因子を有するハイリスクStage II 結腸がん治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFLX6療法またはXELOX療法の至適投与期間に関するランダム化第III相比較臨床試験	吉野 孝之	消化管内科	778,550	委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
Epidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive (EGFRm+) 進行非小細胞肺癌 (NSCLC) 初回オシメルチニブ治療の効果、安全性及び増悪後の治療に関する観察研究-Reiwa-	葉 清隆	呼吸器内科	538,463	委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
切除不能または再発胸腺癌に対するレンバチニブの多施設共同第II相臨床試験	吉野 孝之	消化管内科	43,900	委	公益社団法人日本医師会

計 275

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Harada,Y/Matsuki,T/Miyamoto,S/他	頭頸部外科	Total laryngectomy increases the risk of chronic constipation: a cross-sectional study of 50 patients.	European archives of oto-rhino-laryngology・2023年280巻1号419-423ページ	Original Article
2	Tomioka,T/Bepu,T/Onitsuka,T/他	頭頸部外科	Post-operative progress of arm abduction function and rate of lymph node metastasis around the region of the accessory nerve: a multicentre prospective observational study.	Japanese journal of clinical oncology・2023年53巻5号401-409ページ	Original Article
3	Baba,D/Matsura,K/Wakabayashi,M/他	頭頸部外科	Comparison between three age-stratified cohorts reveals poor prognosis of young patients with tongue carcinoma.	Frontiers in oncology・2022年12巻959749ページ	Original Article
4	Wada,A/Enokida,T/Okano,S/他	頭頸部内科	Proton pump inhibitors and antibiotics adversely effect the efficacy of nivolumab in patients with recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck.	European journal of cancer (Oxford, England : 1990)・2023年184巻30-38ページ	Original Article
5	Kiyota,N/Tahara,M/Mizusawa,J/他	頭頸部内科	Weekly Cisplatin Plus Radiation for Postoperative Head and Neck Cancer (JCOG1008): A Multicenter, Noninferiority, Phase II/III Randomized Controlled Trial.	Journal of clinical oncology・2022年40巻18号1980-1990ページ	Original Article
6	Ueda,Y/Okano,S/Enokida,T/他	頭頸部内科	Nivolumab for recurrent or metastatic head and neck cancer patients with non-squamous cell carcinoma and/or a primary subsite excluded from CheckMate141, a retrospective study.	Oral oncology・2022年130巻105932ページ	Original Article
7	Tanaka,N/Enokida,T/Fujiwara,T/他	頭頸部内科	Biweekly administration of cetuximab in Japanese patients with recurrent or metastatic head and neck cancer.	International journal of clinical oncology・2022年27巻11号1669-1674ページ	Original Article
8	Takeshita,N/Enokida,T/Okano,S/他	頭頸部内科	Induction chemotherapy with paclitaxel, carboplatin and cetuximab for locoregionally advanced nasopharyngeal carcinoma: A single-center, retrospective study.	Frontiers in oncology・2022年12巻951387ページ	Original Article

9	Takaya,A/Higashino,T/Oshima,A/他	形成外科	Clinical assessment of early mobilization after head and neck free flap reconstruction: A retrospective case-control study.	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery・2022年75巻11号3997-4002ページ	Original Article
10	Onishi,K/Watanuki,R/Yokoe,T/他	乳腺外科	A Case of Brachial Lymph Node Recurrences after the Resection of Locally Advanced Breast Cancer.	Case reports in oncology・2022年15巻2号738-744ページ	Original Article
11	Matsubara,N/Yonese,J/Kojima,T/他	腫瘍内科	Japanese subgroup analysis of EV-301: An open-label, randomized phase 3 study to evaluate enfortumab vedotin versus chemotherapy in subjects with previously treated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma.	Cancer medicine・2023年12巻3号2761-2771ページ	Original Article
12	Matsubara,N/de,Bono,J/Olmos,D/他	腫瘍内科	Olaparib Efficacy in Patients with Metastatic Castration-resistant Prostate Cancer and BRCA1, BRCA2, or ATM Alterations Identified by Testing Circulating Tumor DNA.	Clinical cancer research・2023年29巻1号92-99ページ	Original Article
13	Matsubara,N/de,Bono,J/Sweeney,C/他	腫瘍内科	Safety Profile of Ipatasertib Plus Abiraterone vs Placebo Plus Abiraterone in Metastatic Castration-resistant Prostate Cancer.	Clinical genitourinary cancer・2023年21巻2号230-237.e1ページ	Original Article
14	Takahashi,N/Kim,S/Schultz,CW/他	腫瘍内科	Replication stress defines distinct molecular subtypes across cancers.	Cancer research communications・2022年2巻6号503-517ページ	Original Article
15	Aokage,K/Suzuki,K/Saji,H/他	呼吸器外科	Segmentectomy for ground-glass-dominant lung cancer with a tumour diameter of 3 cm or less including ground-glass opacity (JCOG1211): a multicentre, single-arm, confirmatory, phase 3 trial.	The Lancet. Respiratory medicine・2023年11巻6号540-549ページ	Original Article
16	Konishi,Y/Taki,T/Nakai,T/他	呼吸器外科	Clinicopathological features and prognostic impact of dirty necrosis in metastatic lung cancers from the colon and rectum.	Cancer science・2023年114巻5号2169-2177ページ	Original Article
17	Aokage,K/Tsuboi,M/Zenke,Y/他	呼吸器外科	Study protocol for JCOG1807C (DEEP OCEAN): a interventional prospective trial to evaluate the efficacy and safety of durvalumab before and after operation or durvalumab as maintenance therapy after chemoradiotherapy against superior sulcus non-small cell lung cancer.	Japanese journal of clinical oncology・2022年52巻4号383-387ページ	Original Article
18	Nomura,K/Nakai,T/Nishina,Y/他	呼吸器外科	18F-fluorodeoxyglucose uptake in PET is associated with the tumor microenvironment in metastatic lymph nodes and prognosis in N2 lung adenocarcinoma.	Cancer science・2022年113巻4号1488-1496ページ	Original Article

19	Niimi,T/Naka i,T/Aokage,K /他	呼吸器外科	Prognostic impact of count of extratumoral lymphatic permeation in lung adenocarcinoma and its relation to the immune microenvironment.	Cancer science・ 2022年113巻4号 1497-1506ページ	Original Article
20	Udagawa,H/ Takahashi,S/ Hirao,M/他	呼吸器内科	Liposomal eribulin for advanced adenoid cystic carcinoma, gastric cancer, esophageal cancer, and small cell lung cancer.	Cancer medicine・ 2023年12巻2号 1269-1278ページ	Original Article
21	Goto,K/Shira ishi,Y/Murak ami,H/他	呼吸器内科	Phase 1 study of DS-1205c combined with gefitinib for EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer.	Cancer medicine・ 2023年12巻6号 7090-7104ページ	Original Article
22	Sugimoto,A/ Matsumoto,S /Udagawa,H/ 他	呼吸器内科	A Large-Scale Prospective Concordance Study of Plasma- and Tissue-Based Next-Generation Targeted Sequencing for Advanced Non-Small Cell Lung Cancer (LC-SCRUM-Liquid).	Clinical cancer research・2023年29 巻8号1506-1514 ページ	Original Article
23	Tamiya,Y/Ma tsumoto,S/Ze nke,Y/他	呼吸器内科	Large-scale clinico-genomic profile of non-small cell lung cancer with KRAS G12C: Results from LC-SCRUM-Asia study.	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)・2023年 176巻103-111ペー ジ	Original Article
24	Tanaka,Y/Na kai,T/Suzuki, A/他	呼吸器内科	Clinicopathological significance of peritumoral alveolar macrophages in patients with resected early-stage lung squamous cell carcinoma.	Cancer immunology, immunotherapy・ 2023年72巻7号 2205-2215ページ	Original Article
25	Kagawa,Y/Ha yashida,T/Li u,J/他	呼吸器内科	The EGFR C797S Mutation Confers Resistance to a Novel EGFR Inhibitor CLN-081 to EGFR Exon 20 Insertion Mutations.	JTO clinical and research reports・ 2023年4巻3号 100462ページ	Original Article
26	Zenke,Y/Hak ozaki,T/Naka hara,Y/他	呼吸器内科	Medical management of older patients with lung cancer.	Japanese journal of clinical oncology・ 2022年52巻10号 1082-1088ページ	Original Article
27	Tamiya,Y/Na kai,T/Suzuki, A/他	呼吸器内科	The impact of tertiary lymphoid structures on clinicopathological, genetic and gene expression characteristics in lung adenocarcinoma.	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)・2022年 174巻125-132ペー ジ	Original Article
28	Sato,K/Fujita ,T/Matsuzaki ,H/他	食道外科	Real-time detection of the recurrent laryngeal nerve in thoracoscopic esophagectomy using artificial intelligence.	Surgical endoscopy・ 2022年36巻7号 5531-5539ページ	Original Article

29	Fujita,T/Sato ,K/Ozaki,A/ 他	食道外科	Propensity-Matched Analysis of the Short-Term Outcome of Robot-Assisted Minimally Invasive Esophagectomy Versus Conventional Thoracoscopic Esophagectomy in Thoracic Esophageal Cancer.	World journal of surgery・2022年46巻8号1926-1933ページ	Original Article
30	Fujita,T/Sato ,K/Ozaki,A/ 他	食道外科	A novel imaging technology to assess oxygen saturation of the gastric conduit in thoracic esophagectomy.	Surgical endoscopy・2022年36巻10号7597-7606ページ	Original Article
31	Sato,K/Fujita ,T/Matsuzaki ,H/他	食道外科	Correction to: Real-time detection of the recurrent laryngeal nerve in thoracoscopic esophagectomy using artificial intelligence.	Surgical endoscopy・2022年36巻12号9483ページ	Original Article
32	Akimoto,E/K inoshita,T/Sa to,R/他	胃外科	Impact of postoperative intra-abdominal infectious complications on survival outcomes in patients with gastric cancer who underwent laparoscopic surgery.	Surgical endoscopy・2023年37巻1号382-390ページ	Original Article
33	Kinoshita,T/ Akimoto,E/Y ura,M/他	胃外科	Survival outcomes of laparoscopic versus open total gastrectomy with nodal dissection for gastric cancer in a high-volume Japanese center: A propensity score-matched analysis.	Annals of gastroenterological surgery・2023年7巻1号53-62ページ	Original Article
34	Habu,T/Kum anishi,R/Oga ta,T/他	胃外科	Complete response to definitive chemoradiotherapy in unresectable locally advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus・2023年20巻3号533-540ページ	Original Article
35	Akimoto,E/K uwata,T/Shit ara,K/他	胃外科	Impact of Programmed Death-Ligand 1 Expression on Mismatch Repair Deficiency and Epstein-Barr Virus Status on Survival Outcomes in Patients with Stage II/III Gastric Cancer After Surgery.	Annals of surgical oncology・2023年	Original Article
36	Tanaka,Y/Ki noshita,T/Ak imoto,E/他	胃外科	The impact of hiatal hernia on survival outcomes in patients with gastroesophageal junction adenocarcinoma.	Annals of gastroenterological surgery・2022年6巻3号366-374ページ	Original Article
37	Yoshioka,T/ Hasegawa,H/ Ikeda,K/他	大腸外科	Efficacy of transperineal minimally invasive surgery with laparoscopic abdominoperineal excision for lower rectal cancer.	Surgery today・2023年53巻4号490-498ページ	Original Article
38	Kitaguchi,D/ Teramura,K/ Matsuzaki,H/ 他	大腸外科	Automatic purse-string suture skill assessment in transanal total mesorectal excision using deep learning-based video analysis.	BJS open・2023年7巻2号zrac176ページ	Original Article

39	Adachi,T/Kitaguchi,D/Teramura,K/他	大腸外科	Single-center comparative study of short-term outcomes of transanal and laparoscopic total mesorectal excisions for low and middle rectal cancers.	Surgical endoscopy・2023年37巻6号 4698-4706ページ	Original Article
40	Tsukada,Y/Rullier,E/Shirishi,T/他	大腸外科	Comparison between preoperative chemoradiotherapy and lateral pelvic lymph node dissection in clinical T3 low rectal cancer without enlarged lateral lymph nodes.	Colorectal disease・2023年	Original Article
41	Narihiro,S/Kitaguchi,D/Ikeda,K/他	大腸外科	Two-team lateral lymph node dissection assisted by the transanal approach for locally advanced lower rectal cancer: comparison with the conventional transabdominal approach.	Surgical endoscopy・2023年	Original Article
42	Hasegawa,H/Tsukada,Y/Wakabayashi,M/他	大腸外科	Impact of near-infrared fluorescence imaging with indocyanine green on structural sequelae of anastomotic leakage after laparoscopic intersphincteric resection of malignant rectal tumors.	Techniques in coloproctology・2022年26巻7号561-570 ページ	Original Article
43	Kitaguchi,D/Takeshita,N/Matsuzaki,H/他	大腸外科	Real-time vascular anatomical image navigation for laparoscopic surgery: experimental study.	Surgical endoscopy・2022年36巻8号 6105-6112ページ	Original Article
44	Kitaguchi,D/Fujino,T/Takeshita,N/他	大腸外科	Limited generalizability of single deep neural network for surgical instrument segmentation in different surgical environments.	Scientific reports・2022年12巻1号 12575ページ	Original Article
45	Shigaki,T/Tsukada,Y/Teramura,K/他	大腸外科	Trans-anal surgery with the taTME technique for rectal gastrointestinal stromal tumors: a retrospective study.	International journal of colorectal disease・2022年37巻9号1975-1982 ページ	Original Article
46	Kitaguchi,D/Lee,Y/Hayashi,K/他	大腸外科	Development and Validation of a Model for Laparoscopic Colorectal Surgical Instrument Recognition Using Convolutional Neural Network-Based Instance Segmentation and Videos of Laparoscopic Procedures.	JAMA network open・2022年5巻8号 e2226265ページ	Original Article
47	Sasaki,S/Kitaguchi,D/Takenaka,S/他	大腸外科	Machine learning-based Automatic Evaluation of Tissue Handling Skills in Laparoscopic Colorectal Surgery: A Retrospective Experimental Study.	Annals of surgery・2022年	Original Article
48	Suzuki,Y/Sasaki,T/Hasegawa,H/他	大腸外科	Morphological characteristics of lateral pelvic lymph nodes in locally advanced lower rectal cancer: A retrospective study.	Annals of gastroenterological surgery・2022年6巻6号795-803 ページ	Original Article

49	Narihiro,S/Teramura,K/Kitaguchi,D/他	大腸外科	Transanal total mesorectal excision for treating a lower rectal inflammatory myofibroblastic tumor: A case report.	Asian journal of endoscopic surgery・2022年15巻4号841-845ページ	Case report
50	Kitaguchi,D/Ito,M	大腸外科	Optimal anastomotic technique in rectal surgery to prevent anastomotic leakage.	Annals of coloproctology・2023年39巻2号97-105ページ	Review
51	Kitaguchi,D/Hasegawa,H/Teramura,K/他	大腸外科	Comparison of postoperative anorectal function between hand-sewn and stapled anastomoses in intersphincteric resection with transanal total mesorectal excision.	The British journal of surgery・2023年110巻3号375-376ページ	Letter
52	Kitaguchi,D/Wakabayashi,M/Hasegawa,H/他	大腸外科	Single-stapling technique versus hand-sewn anastomosis in inter-sphincteric resection with transanal total mesorectal excision (Super SST): protocol for a multicentre randomized clinical trial.	BJS open・2023年7巻1号zrac160ページ	Others
53	Kitaguchi,D/Watanabe,Y/Madani,A/他	大腸外科	Artificial Intelligence for Computer Vision in Surgery: A Call for Developing Reporting Guidelines.	Annals of surgery・2022年275巻4号e609-e611ページ	Others
54	Igaki,T/Kitaguchi,D/Kojima,S/他	大腸外科	Artificial Intelligence-Based Total Mesorectal Excision Plane Navigation in Laparoscopic Colorectal Surgery.	Diseases of the colon and rectum・2022年65巻5号e329-e333ページ	Others
55	Yoshino,T/Andre,T/Kim,TW/他	消化管内科	Pembrolizumab in Asian patients with microsatellite-instability-high/mismatch-repair-deficient colorectal cancer.	Cancer science・2023年114巻3号1026-1036ページ	Original Article
56	Sato,S/Nakamura,Y/Oki,E/他	消化管内科	Molecular Residual Disease-guided Adjuvant Treatment in Resected Colorectal Cancer: Focus on CIRCULATE-Japan.	Clinical colorectal cancer・2023年22巻1号53-58ページ	Original Article
57	Kotani,D/Nakamura,Y/Fujisawa,T/他	消化管内科	ICGC-ARGO precision medicine: an update on targeted therapy based on longitudinal analysis of tumour heterogeneity and evolution in colorectal cancer.	The Lancet. Oncology・2023年24巻1号20-21ページ	Original Article
58	Bando,H/Ohtsu,A/Yoshino,T	消化管内科	Therapeutic landscape and future direction of metastatic colorectal cancer.	Nature reviews. Gastroenterology & hepatology・2023年20巻5号306-322ページ	Original Article

59	Yoshino,T/Taieb,J/Kuboki,Y/他	消化管内科	Trifluridine/tipiracil with or without bevacizumab in metastatic colorectal cancer: results of a systematic review and meta-analysis.	Therapeutic advances in medical oncology・2023年15巻 17588359221146100ページ	Original Article
60	Ohba,A/Morizane,C/Ueno,M/他	消化管内科	Multicenter phase II trial of trastuzumab deruxtecan for HER2-positive unresectable or recurrent biliary tract cancer: HERB trial.	Future oncology (London, England)・2022年18巻19号 2351-2360ページ	Original Article
61	Chida,K/Kawazoe,A/Suzuki,T/他	消化管内科	Transcriptomic Profiling of MSI-H/dMMR Gastrointestinal Tumors to Identify Determinants of Responsiveness to Anti-PD-1 Therapy.	Clinical cancer research・2022年28巻10号2110-2117 ページ	Original Article
62	Yoshino,T/Okii,E/Misumi,T/他	消化管内科	Final Analysis of 3 Versus 6 Months of Adjuvant Oxaliplatin and Fluoropyrimidine-Based Therapy in Patients With Stage III Colon Cancer: The Randomized Phase III ACHIEVE Trial.	Journal of clinical oncology・2022年40巻29号3419-3429 ページ	Original Article
63	Bando,H/Nakamura,Y/Taniguchi,H/他	消化管内科	Effects of Metastatic Sites on Circulating Tumor DNA in Patients With Metastatic Colorectal Cancer.	JCO precision oncology・2022年6巻 e2100535ページ	Original Article
64	Nakamura,Y/Olsen,S/Zhang,N/他	消化管内科	Comprehensive Genomic Profiling of Circulating Tumor DNA in Patients with Previously Treated Metastatic Colorectal Cancer: Analysis of a Real-World Healthcare Claims Database.	Current oncology (Toronto, Ont.)・2022年29巻5号 3433-3448ページ	Original Article
65	Yoshino,T/Van,Cutsem,E/Li,J/他	消化管内科	Effect of KRAS codon 12 or 13 mutations on survival with trifluridine/tipiracil in pretreated metastatic colorectal cancer: a meta-analysis.	ESMO open・2022年7巻3号100511 ページ	Original Article
66	Aoki,Y/Kawazoe,A/Kubota,Y/他	消化管内科	Characteristics and clinical outcomes of patients with advanced gastric or gastroesophageal cancer treated in and out of randomized clinical trials of first-line immune checkpoint inhibitors.	International journal of clinical oncology・2022年27巻9号 1413-1420ページ	Original Article
67	Kotani,D/Nakamura,Y/Fujisawa,T/他	消化管内科	ICGC-ARGO precision medicine: targeted therapy according to longitudinal assessment of tumour heterogeneity in colorectal cancer.	The Lancet. Oncology・2022年23巻4号463-464 ページ	Case report
68	Yoshikawa,A/Nakamura,Y	消化管内科	Molecular Basis of HER2-Targeted Therapy for HER2-Positive Colorectal Cancer.	Cancers・2022年15巻1号183 ページ	Review

69	Kadota,T/Ishihara,R/Hatt a,W/他	消化管内視鏡科	Multi-institutional questionnaire on treatment strategies for superficial entire circumferential esophageal squamous cell carcinoma.	DEN open・2023年3巻1号e206ページ	Original Article
70	Murano,T/Ikematsu,H/Shinmura,K/他	消化管内視鏡科	Endoscopic management of familial adenomatous polyposis targeting colorectal lesions greater than 5 mm in size: a single-center retrospective study.	Familial cancer・2023年22巻1号83-89ページ	Original Article
71	Sunakawa,H/Yoda,Y/Takahashi,M/他	消化管内視鏡科	Prospective study on the risk of transmission due to droplets and aerosols during an endoscopic procedure and the usefulness of extraoral suction devices.	Digestive endoscopy・2023年35巻3号332-341ページ	Original Article
72	Mitsui,T/Nakajo,K/Takahashi,K/他	消化管内視鏡科	Usefulness of endoscopic ultrasound in predicting treatment efficacy of salvage endoscopic therapy for local failure after chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus・2023年20巻1号116-123ページ	Original Article
73	Kano,Y/Kadota,T/Inaba,A/他	消化管内視鏡科	Efficacy and safety of repeated endoscopic radial incision and cutting procedure for benign esophageal stricture.	Endoscopy international open・2023年11巻3号E230-E236ページ	Original Article
74	Ito,R/Nakamura,Y/Sunakawa,H/他	消化管内視鏡科	Tumor response and survival outcomes of salvage concurrent chemoradiotherapy with three-dimensional conformal radiotherapy and 5-fluorouracil/platinum-based chemotherapy for postoperative locoregional recurrence of esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus・2022年19巻4号645-652ページ	Original Article
75	Nakajo,K/Inaba,A/Aoyama,N/他	消化管内視鏡科	The characteristics of missed pharyngeal and laryngeal cancers at gastrointestinal endoscopy.	Japanese journal of clinical oncology・2022年52巻6号575-582ページ	Original Article
76	Sato,D/Kadota,T/Inaba,A/他	消化管内視鏡科	Long-term clinical outcome after endoscopic resection of esophageal squamous cell carcinoma invading the muscularis mucosae without lymphovascular invasion.	Gastrointestinal endoscopy・2022年95巻4号634-641.e3ページ	Original Article
77	Hori,K/Ikematsu,H/Yamamoto,Y/他	消化管内視鏡科	Detecting colon polyps in endoscopic images using artificial intelligence constructed with automated collection of annotated images from an endoscopy reporting system.	Digestive endoscopy・2022年34巻5号1021-1029ページ	Original Article
78	Yano,T	消化管内視鏡科	What is the next critical finding to change our mind in esophagogastroduodenoscopy?.	Digestive endoscopy・2022年34巻4号766-768ページ	Original Article

79	Shinmura,K/ Yamamoto,Y/ Inaba,A/他	消化管内視鏡科	The safety and feasibility of endoscopic submucosal dissection using a flexible three-dimensional endoscope for early gastric cancer and superficial esophageal cancer: A prospective observational study.	Journal of gastroenterology and hepatology・2022年37巻4号749-757 ページ	Original Article
80	Yano,T/Yoda Y/Nonaka,S /他	消化管内視鏡科	Pivotal trial of a biodegradable stent for patients with refractory benign esophageal stricture.	Esophagus・2022年19巻3号516-524 ページ	Original Article
81	Mitsui,T/Kad ota,T/Wakab ayashi,M/他	消化管内視鏡科	Factors of technical difficulty in conventional and traction-assisted esophageal endoscopic submucosal dissection.	Esophagus・2022年19巻3号452-459 ページ	Original Article
82	Yamashita,H/ Nakajo,K/Ta kashima,K/他	消化管内視鏡科	Recurrent metastasis risk factors in esophageal cancer after salvage endoscopic resection for local failure following chemoradiotherapy.	Digestive endoscopy・2022年34巻7号1356-1369 ページ	Original Article
83	Yano,T	消化管内視鏡科	Can endoscopic submucosal dissection be an appropriate initial treatment for T1 esophageal squamous cell carcinoma?.	Digestive endoscopy・2022年34巻4号805-807 ページ	Original Article
84	Yamashita,H/ Ikematsu,H/ Murano,T/他	消化管内視鏡科	The usefulness of a double-balloon endolumenal interventional platform for colorectal endoscopic submucosal dissection by non-expert endoscopists in a porcine model (with video).	Surgical endoscopy・2022年36巻10号7818-7826ページ	Original Article
85	Nakajo,K/Yo da,Y/Yamash ita,H/他	消化管内視鏡科	Salvage endoscopic resection for cT1N0M0 local recurrence after chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma: endoscopic submucosal dissection versus endoscopic mucosal resection.	Japanese journal of clinical oncology・2022年52巻9号982-991ページ	Original Article
86	Mitsui,T/Yod a,Y/Sunakaw a,H/他	消化管内視鏡科	Development of new gastric endoscopic submucosal dissection training model: A reproducibility evaluation study.	Endoscopy international open・2022年10巻9号E1261-E1267ページ	Original Article
87	Kudo,M/Got ohda,N/Sugi moto,M/他	肝胆膵外科	The Assessment of Regional Liver Function Before Major Hepatectomy Using Magnetic Resonance Imaging.	The American surgeon・2022年88巻9号2353-2360ページ	Original Article
88	Kudo,M/Ishii G/Gotohda, N/他	肝胆膵外科	Histological tumor necrosis in pancreatic cancer after neoadjuvant therapy.	Oncology reports・2022年48巻1号121 ページ	Original Article

89	Sugimoto,M/ Gotohda,N/K udo,M/他	肝胆膵外科	Laparoscopic liver resection can be performed safely without intraoperative drain placement.	Surgical endoscopy・2022年36巻12号9019-9031ページ	Original Article
90	Sasaki,K/Ito, M/Kobayashi, S/他	肝胆膵外科	Automated surgical workflow identification by artificial intelligence in laparoscopic hepatectomy: Experimental research.	International journal of surgery (London, England)・2022年105巻106856ページ	Others
91	Shibuki,T/Okumura,K/Sekine,M/他	肝胆膵内科	Covered self-expandable metallic stents versus plastic stents for endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy in patients with malignant biliary obstruction.	Clinical endoscopy・2023年	Original Article
92	Satake,T/Morizane,C/Rikitake,R/他	肝胆膵内科	The epidemiology of rare types of hepatobiliary and pancreatic cancer from national cancer registry.	Journal of gastroenterology・2022年57巻11号890-901ページ	Original Article
93	Ikeda,M/Arai,Y/Inaba,Y/他	肝胆膵内科	Conventional or Drug-Eluting Beads? Randomized Controlled Study of Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma: JIVROSG-1302.	Liver cancer・2022年11巻5号440-450ページ	Original Article
94	Shibuki,T/Mizuta,T/Shimokawa,M/他	肝胆膵内科	Prognostic nomogram for patients with unresectable pancreatic cancer treated with gemcitabine plus nab-paclitaxel or FOLFIRINOX: A post-hoc analysis of a multicenter retrospective study in Japan (NAPOLEON study).	BMC cancer・2022年22巻1号19ページ	Original Article
95	Goda,K/Hashimoto,Y/Ikeda,M	肝胆膵内科	Cholangioscopic diagnosis of hemobilia: an unusual case of left hepatic portal hypertension by plasma cell tumor.	VideoGIE・2022年7巻4号143-145ページ	Case report
96	Yajima,S/Nakanishi,Y/Sugimoto,M/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	A novel predictive model for postoperative delirium using multiple geriatric screening factors.	Journal of surgical oncology・2023年127巻6号1071-1078ページ	Original Article
97	Yajima,S/Nakanishi,Y/Yasujima,R/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Rapid geriatric screening tools predict inability to manage stoma by oneself after urinary diversion: G8 and IADL-modified G8.	Journal of geriatric oncology・2023年14巻3号101468ページ	Original Article
98	Yajima,S/Nakanishi,Y/Matsumoto,S/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	The Mini-Cog: A simple screening tool for cognitive impairment useful in predicting the risk of delirium after major urological cancer surgery.	Geriatrics & gerontology international・2022年22巻4号319-324ページ	Original Article

99	Yajima,S/Nakanishi,Y/Umino,Y/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Value of Geriatric Assessment Using the G8 to Predict Postoperative Urinary Tract Infections in Patients Undergoing Radical Cystectomy.	Turkish journal of urology・2022年48巻4号278-286ページ	Original Article
100	Yajima,S/Nakanishi,Y/Yasujima,R/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Predictive value of the G8 and the IADL-modified G8 screening tools for postoperative delirium following major urological cancer surgery.	Journal of geriatric oncology・2022年13巻8号1188-1193ページ	Original Article
101	Nakanishi,Y/Matsumoto,S/Okubo,N/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Significance of postoperative membranous urethral length and position of vesicourethral anastomosis for short-term continence recovery following robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy.	BMC urology・2022年22巻1号145ページ	Original Article
102	Yajima,S/Nakanishi,Y/Umino,Y/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Initial Experience of Hybrid Technique in Robot-Assisted Intracorporeal Ileal Conduit.	Turkish journal of urology・2022年48巻6号415-422ページ	Original Article
103	Yajima,S/Nakanishi,Y/Umino,Y/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Salvage Robot-Assisted Radical Prostatectomy (sRARP) for Radiation-Recurrent Prostate Cancer: a Single-Center Experience.	Indian J Surg Oncol・2022年	Original Article
104	Yajima,S/Nakanishi,Y/Umino,Y/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Clock drawing errors in the Mini-Cog test predict postoperative delirium following transurethral resection of bladder tumors while awake.	Perioperative Care and Operating Room Management・2022年28巻100260ページ	Original Article
105	Yajima,S/Nakanishi,Y/Yasujima,R/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Simultaneous robot-assisted nephroureterectomy and radical cystectomy.	IJU case reports・2023年6巻1号14-17ページ	Case report
106	Yajima,S/Nakanishi,Y/Matsumoto,S/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	A Pitfall of the Androgen Deprivation Therapy for Salivary Duct Carcinoma: Hormonal Therapy-Induced Castrate-Resistant Prostate Cancer.	Journal of maxillofacial and oral surgery・2022年21巻4号1097-1100ページ	Case report
107	Oda jima,S/Tanabe,H/Koike,Y/他	婦人科	Retrospective Analysis of Total Parietal Peritonectomy Without Systematic Lymphadenectomy for Advanced Epithelial Ovarian Cancer.	Cancer diagnosis & prognosis・2022年2巻4号482-488ページ	Original Article
108	Hijikata,N/Is hikawa,A/Matsuda,S/他	リハビリテーション科	Effect of Postoperative Oral Intake Status on Sarcopenia Six Months After Esophageal Cancer Surgery.	Dysphagia・2023年38巻1号340-350ページ	Original Article

109	Harada,T/Ta tematsu,N/U eno,J/他	リハビリテーション科	Impact of early postoperative factors on changes in skeletal muscle mass after esophagectomy in older patients with esophageal cancer.	European geriatric medicine・2023年14巻1号203-210ページ	Original Article
110	Harada,T/Ta tematsu,N/U eno,J/他	リハビリテーション科	Prognostic Impact of Postoperative Loss of Skeletal Muscle Mass in Patients Aged 70 Years or Older with Esophageal Cancer.	Annals of surgical oncology・2022年29巻9号5638-5645ページ	Original Article
111	Harada,T/Ts uji,T/Fujita,T	リハビリテーション科	ASO Author Reflections: Significance of Postoperative Loss of Skeletal Muscle Mass in Older Patients with Esophageal Cancer.	Annals of surgical oncology・2022年29巻9号5646-5647ページ	Original Article
112	Harada,T/Ts uji,T/Fujita,T	リハビリテーション科	ASO Author Reflections: Significance of Loss of Skeletal Muscle Mass During Neoadjuvant Chemotherapy in Older Patients with Esophageal Cancer.	Annals of surgical oncology・2022年29巻13号8140-8141ページ	Original Article
113	Harada,T/Ts uji,T/Ueno,J /他	リハビリテーション科	Prognostic Impact of the Loss of Skeletal Muscle Mass During Neoadjuvant Chemotherapy on Older Patients with Esophageal Cancer.	Annals of surgical oncology・2022年29巻13号8131-8139ページ	Original Article
114	Urabe,A/Chi, S/Minami,Y	血液腫瘍科	The Immuno-Oncology and Genomic Aspects of DNA-Hypomethylating Therapeutics in Acute Myeloid Leukemia.	International journal of molecular sciences・2023年24巻4号3727ページ	Review
115	Ikeda,D/Chi, S/Uchiyama, S/他	血液腫瘍科	Molecular Classification and Overcoming Therapy Resistance for Acute Myeloid Leukemia with Adverse Genetic Factors.	International journal of molecular sciences・2022年23巻11号5950ページ	Review
116	Arai,H/Mina mi,Y/Chi,S/ 他	血液腫瘍科	Molecular-Targeted Therapy for Tumor-Agnostic Mutations in Acute Myeloid Leukemia.	Biomedicines・2022年10巻12号3008ページ	Review
117	Nakagomi,Y/ Tajiri,K/Shim ada,S/他	循環器科	Immune Checkpoint Inhibitor-Related Myositis Overlapping With Myocarditis: An Institutional Case Series and a Systematic Review of Literature.	Frontiers in pharmacology・2022年13巻884776ページ	Original Article
118	Tajiri,K/Sueh ara,Y/Suzuki, T/他	循環器科	Clonal hematopoiesis and associated cardiovascular diseases.	Japanese journal of clinical oncology・2023年53巻3号187-194ページ	Review

119	Tajiri,K/Sekine,I	循環器科	Atherosclerotic cardiovascular events associated with immune checkpoint inhibitors in cancer patients.	Japanese journal of clinical oncology・2022年52巻7号659-664ページ	Review
120	Matsumoto,Y/Umemura,S/Okizaki,A/他	緩和医療科	Early specialized palliative care for patients with metastatic lung cancer receiving chemotherapy: a feasibility study of a nurse-led screening-triggered programme.	Japanese journal of clinical oncology・2022年52巻4号375-382ページ	Original Article
121	Kubo,E/Ishiki,H/Abe,K/他	緩和医療科	Clinical role and safety of tapentadol in patients with cancer: A single-center experience.	Journal of opioid management・2022年18巻3号273-280ページ	Original Article
122	Uehara,Y/Matsumoto,Y/Kosugi,T/他	緩和医療科	Availability of and factors related to interventional procedures for refractory pain in patients with cancer: a nationwide survey.	BMC palliative care・2022年21巻1号166ページ	Original Article
123	Miura,T/Mitsunaga,S/Matsuzaki,J/他	緩和医療科	Serum microRNAs as new criteria for referral to early palliative care services in treatment-naïve advanced cancer patients.	Oncotarget・2022年13巻1341-1349ページ	Original Article
124	Terada,T/Miura,T/Kosugi,K/他	緩和医療科	Efficacy of Aconiti tuber for chemotherapy-induced peripheral neuropathy with peripheral coldness and/or symptoms relief by warming: A case series.	Traditional & Kampo Medicine・2022年9巻1号57-60ページ	Original Article
125	Usui,Y/Kosugi,K/Nishiguchi,Y/他	緩和医療科	Parenting experiences of cancer patients with minor children and their conversations about the possibility of death: a cross-sectional web-based survey for an online cancer community.	Supportive care in cancer・2022年30巻9号7715-7720ページ	Original Article
126	Miura,T/Elgersma,R/Okizaki,A/他	緩和医療科	A Japanese translation, cultural adaptation, and linguistic and content validity confirmation of the Scored Patient-Generated Subjective Global Assessment.	Supportive care in cancer・2021年29巻12号7329-7338ページ	Original Article
127	Miura,T/Okizaki,A/Hasuo,H/他	緩和医療科	Dexamethasone 8 mg for Cancer-Related Fatigue in Inpatients with Advanced Cancer Undergoing Palliative Care: A Multicenter Phase II Trial.	Palliative medicine reports・2021年2巻1号316-323ページ	Original Article
128	Masuoka,S/Hiyama,T/Kuno,H/他	放射線診断科	Imaging Approach for Cervical Lymph Node Metastases from Unknown Primary Tumor.	Radiographics・2023年43巻3号e220071ページ	Original Article

129	Nakama,R/Arai,Y/Horii,T/ 他	放射線診断科	Air Embolism with Electrocardiogram Abnormality after Lung Biopsy.	Internal medicine (Tokyo, Japan)・2023年62巻9号1383-1384ページ	Case report
130	Nakama,R/Arai,Y/Hosoi,K/ 他	放射線診断科	Computed Tomography-Guided Percutaneous Intranodal Mesenteric Lymphangiography for the Identification of a Lymphatic Leak.	Journal of vascular and interventional radiology・2022年33巻7号854-855ページ	Case report
131	Nakama,R/Arai,Y/Kobayashi,T	放射線診断科	Sedation With Dexmedetomidine During Lymphangiography and Thoracic Duct Embolization in an Elderly Man.	Cureus・2022年14巻4号e24466ページ	Case report
132	Zenda,S/Arai,Y/Sugawara,S/ 他	放射線治療科	Protocol for a confirmatory trial of the effectiveness and safety of palliative arterial embolization for painful bone metastases.	BMC cancer・2023年23巻1号109ページ	Original Article
133	Okumura,M/Du,J/Kageyama,SI/ 他	放射線治療科	Comprehensive screening for drugs that modify radiation-induced immune responses.	British journal of cancer・2022年126巻12号1815-1823ページ	Original Article
134	Okumura,M/Hojo,H/Akimoto,T	放射線治療科	Response to palliative radiotherapy for cancer patients with interstitial lung disease: A physician's perspective.	Radiotherapy and oncology・2022年169巻157-158ページ	Others
135	Kuroe,T/Watanabe,R/Morisue,R/ 他	病理・臨床検査科	Dirty necrosis in renal cell carcinoma is associated with NETosis and systemic inflammation.	Cancer medicine・2023年12巻4号4557-4567ページ	Original Article
136	Sakashita,S/Sakamoto,N/Kojima,M/ 他	病理・臨床検査科	Requirement of image standardization for AI-based macroscopic diagnosis for surgical specimens of gastric cancer.	Journal of cancer research and clinical oncology・2023年	Original Article
137	Adachi,M/Aoyama,N/Kojima,M/ 他	病理・臨床検査科	The area of residual tumor predicts esophageal squamous cell carcinoma prognosis following neoadjuvant chemotherapy.	Journal of cancer research and clinical oncology・2022年	Original Article
138	Eguchi,Y/Nakai,T/Kojima,M/ 他	病理・臨床検査科	Pathologic method for extracting good prognosis group in triple-negative breast cancer after neoadjuvant chemotherapy.	Cancer science・2022年113巻4号1507-1518ページ	Original Article

139	Noritake,O/ Aokage,K/Su zuki,A/他	病理・臨床検査科	Prognostic impact of the number of peri-tumoral alveolar macrophages in patients with stage I lung adenocarcinoma.	Journal of cancer research and clinical oncology・2022年148巻12号3437-3447ページ	Original Article
140	Fujii,S/Kotani,D/Hattori,M/他	病理・臨床検査科	Rapid Screening Using Pathomorphologic Interpretation to Detect BRAFV600E Mutation and Microsatellite Instability in Colorectal Cancer.	Clinical cancer research・2022年28巻12号2623-2632ページ	Original Article
141	Kondo,R/Sakamoto,N/Harada,K/他	病理・臨床検査科	Cancer-associated fibroblast-dependent and -independent invasion of gastric cancer cells.	Journal of cancer research and clinical oncology・2022年	Original Article
142	Doi,T/Shitara,K/Kojima,T/他	先端医療科	Phase I study of the irreversible fibroblast growth factor receptor 1-4 inhibitor futibatinib in Japanese patients with advanced solid tumors.	Cancer science・2023年114巻2号574-585ページ	Original Article
143	Shitara,K/Hirao,M/Iwasa,S/他	先端医療科	Phase I Study of the Liposomal Formulation of Eribulin (E7389-LF): Results from the Advanced Gastric Cancer Expansion Cohort.	Clinical cancer research・2023年29巻8号1460-1467ページ	Original Article
144	Funasaka,C/Naito,Y/Kusuhara,S/他	先端医療科	Clinical features of CDK4/6 inhibitor-related interstitial lung disease in patients with breast cancer: a case series study.	Japanese journal of clinical oncology・2023年53巻2号105-114ページ	Original Article
145	Koganemaru,S/Kawai,T/Fuchigami,H/他	先端医療科	Quantitative analysis of drug distribution in heterogeneous tissues using dual-stacking capillary electrophoresis-mass spectrometry.	British journal of pharmacology・2023年180巻6号762-774ページ	Original Article
146	Shitara,K/Kawazoe,A/Hirakawa,A/他	先端医療科	Phase 1 trial of zolbetuximab in Japanese patients with CLDN18.2+ gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma.	Cancer science・2023年114巻4号1606-1615ページ	Original Article
147	Yuda,J/Doki,N/Matsuoka,H/他	先端医療科	Asciminib vs bosutinib in CML patients pretreated with ≥ 2 tyrosine kinase inhibitors: Results from the Japanese subgroup analysis of ASCEMBL study.	Cancer medicine・2023年12巻3号2990-2998ページ	Original Article
148	Kuboki,Y/Terazawa,T/Masuishi,T/他	先端医療科	Trifluridine/tipiracil+bevacizumab (BEV) vs. fluoropyrimidine-irinotecan+BEV as second-line therapy for metastatic colorectal cancer: a randomised noninferiority trial.	British journal of cancer・2023年128巻10号1897-1905ページ	Original Article

149	Hasegawa,H/ Shitara,K/Ta kiguchi,S/他	先端医療科	A multicenter, open-label, single-arm phase I trial of neoadjuvant nivolumab monotherapy for resectable gastric cancer.	Gastric cancer・2022年25巻3号619-628ページ	Original Article
150	Naito,Y/Suna mi,K/Kage,H /他	先端医療科	Concordance Between Recommendations From Multidisciplinary Molecular Tumor Boards and Central Consensus for Cancer Treatment in Japan.	JAMA network open・2022年5巻12号e2245081ページ	Original Article
151	Kuboki,Y/Shi mizu,T/Yone mori,K/他	先端医療科	Safety, Tolerability, and Pharmacokinetics of TAK-931, a Cell Division Cycle 7 Inhibitor, in Patients with Advanced Solid Tumors: A Phase I First-in-Human Study.	Cancer research communications・2022年2巻11号1426-1435ページ	Original Article
152	Shitara,K/Do i,T/Hosaka,H /他	先端医療科	Efficacy and safety of trifluridine/tipiracil in older and younger patients with metastatic gastric or gastroesophageal junction cancer: subgroup analysis of a randomized phase 3 study (TAGS).	Gastric cancer・2022年25巻3号586-597ページ	Original Article
153	Naito,Y/Nishi da,T/Doi,T	先端医療科	Current status of and future prospects for the treatment of unresectable or metastatic gastrointestinal stromal tumours.	Gastric cancer・2023年26巻3号339-351ページ	Review
154	Ainoda,Y/Ko maki- Yasuda,K/Ka no,S/他	感染症科	False-positive fourth-generation HIV test result in a woman with Plasmodium malariae malaria.	Transactions of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene・2023年117巻2号147-148ページ	Case report
155	Ainoda,Y/Ta naka,E/Waji ma,T/他	感染症科	A case of Shewanella algae-induced bacteremia in Japan: Case report and literature review.	Journal of infection and chemotherapy・2022年28巻10号1430-1432ページ	Case report
156	Tachibana,H/ Takahashi,R/ Kogure,T/他	放射線品質管理室	Practical dosimetry procedure of air kerma for kilovoltage X-ray imaging in radiation oncology using a 0.6-cc cylindrical ionization chamber with a cobalt absorbed dose-to-water calibration coefficient.	Radiological physics and technology・2022年15巻3号264-270ページ	Original Article
157	Tachibana,H/ Watanabe,Y/ Kurokawa,S/ 他	放射線品質管理室	Multi-Institutional Study of End-to-End Dose Delivery Quality Assurance Testing for Image-Guided Brachytherapy Using a Gel Dosimeter.	Brachytherapy・2022年21巻6号956-967ページ	Original Article
158	Chitose,H/K uwana,M/Miu ra,T/他	栄養管理室	A Japanese Nationwide Survey of Nutritional Counseling for Cancer Patients and Risk Factors of Burnout among Registered Dietitians.	Palliative medicine reports・2022年3巻1号211-219ページ	Original Article

159	Shibutani,Y/S uzuki,S/Saga ra,A/他	薬剤部	Impact of lenvatinib-induced proteinuria and renal dysfunction in patients with thyroid cancer.	Frontiers in oncology・2023年13巻1154771ページ	Original Article
160	Baba,K/Kawamoto,M/Mamishin,K/他	薬剤部	The impact of the COVID-19 pandemic on perioperative chemotherapy for breast cancer.	Cancer medicine・2023年	Original Article
161	Niguma,K/Mamishin,K/Naito,Y/他	薬剤部	Impact of Older Age and Medico-social Factors on the Decision to Offer Adjuvant Chemotherapy to Patients With Breast Cancer.	Anticancer research・2022年42巻7号3743-3751ページ	Original Article
162	Suzuki,H/Mitsunaga,S/Ikeda,M/他	薬剤部	Interleukin 6/gp130 axis promotes neural invasion in pancreatic cancer.	Cancer medicine・2022年11巻24号5001-5012ページ	Original Article
163	Uchida,M/Suzuki,S/Sugawara,H/他	薬剤部	Multicentre prospective observational study on community pharmacist interventions to reduce inappropriate medications.	The International journal of pharmacy practice・2022年30巻5号427-433ページ	Original Article
164	Okunaka,M/Kano,D/Uesawa,Y	薬剤部	Nuclear Receptor and Stress Response Pathways Associated with Antineoplastic Agent-Induced Diarrhea.	International journal of molecular sciences・2022年23巻20号12407ページ	Original Article
165	Shibutani,Y/Sato,H/Suzuki,S/他	薬剤部	A Case Series on Pain Accompanying Photoimmunotherapy for Head and Neck Cancer.	Healthcare (Basel, Switzerland)・2023年11巻6号924ページ	Case report
166	Rachi,T/Ariji,T/Takahashi,S	放射線技術部	Development of Machine-Learning Prediction Programs for Delivering Adaptive Radiation Therapy With Tumor Geometry and Body Shape Changes in Head and Neck Volumetric Modulated Arc Therapy.	Advances in radiation oncology・2023年8巻4号101172ページ	Original Article
167	Fujii,K/Nomura,K/Imai,K/他	放射線技術部	Evaluation of Apparent Noise on CT Images Using Moving Average Filters.	Journal of digital imaging・2022年35巻1号77-85ページ	Original Article
168	Hirota,K/Moriya,S/Tachibana,H/他	放射線技術部	Detection of anatomical changes using two-dimensional x-ray images for head and neck adaptive radiotherapy.	Medical physics・2022年49巻5号3288-3297ページ	Original Article

169	Rachi,T/Pars hram,RV/Ta naka,Y/他	放射線技術部	Examination of conversion method of dose distribution of lung cancer IMRT using fluence reversible calculation function in O-ring type linac and C-type linac.	Physical and engineering sciences in medicine・2022年45巻2号559-567ページ	Original Article
170	Fujii,K/Nomu ra,K/Murama tsu,Y/他	放射線技術部	PATIENT-SPECIFIC ORGAN DOSE EVALUATION BASED ON MONTE CARLO SIMULATION AND DOSE METRICS IN PAEDIATRIC CHEST-ABDOMEN-PELVIS CT EXAMINATIONS.	Radiation protection dosimetry・2021年197巻1号46-53ページ	Original Article
171	Sakamoto,Y/ Bando,H/Nak amura,Y/他	医薬品開発推進部門	Trajectory for the Regulatory Approval of a Combination of Pertuzumab Plus Trastuzumab for Pre-treated HER2-positive Metastatic Colorectal Cancer Using Real-world Data.	Clinical colorectal cancer・2023年22巻1号45-52ページ	Original Article
172	Kotani,D/Oki E/Nakamura ,Y/他	医薬品開発推進部門	Molecular residual disease and efficacy of adjuvant chemotherapy in patients with colorectal cancer.	Nature medicine・2023年29巻1号127-134ページ	Original Article
173	Nakamura,Y/ Yamashita,R/ Okamoto,W/ 他	医薬品開発推進部門	Efficacy of Targeted Trials and Signaling Pathway Landscape in Advanced Gastrointestinal Cancers From SCRUM-Japan GI-SCREEN: A Nationwide Genomic Profiling Program.	JCO precision oncology・2023年7巻e2200653ページ	Original Article
174	Imai,M/Naka mura,Y/Suna mi,K/他	医薬品開発推進部門	Expert panel consensus recommendations on the use of circulating tumor DNA assays for patients with advanced solid tumors.	Cancer science・2022年113巻11号3646-3656ページ	Original Article
175	Bando,H/Tsu kada,Y/Inam ori,K/他	医薬品開発推進部門	Preoperative Chemoradiotherapy plus Nivolumab before Surgery in Patients with Microsatellite Stable and Microsatellite Instability-High Locally Advanced Rectal Cancer.	Clinical cancer research・2022年28巻6号1136-1146ページ	Original Article
176	Bando,H/Tsu kada,Y/Ito,M /他	医薬品開発推進部門	Novel Immunological Approaches in the Treatment of Locally Advanced Rectal Cancer.	Clinical colorectal cancer・2022年21巻1号44994ページ	Review
177	Takeshita,N/ Sakamoto,S/ Kitaguchi,D/ 他	医療機器開発センター	Deep Learning-Based Seminal Vesicle and Vas Deferens Recognition in the Posterior Approach of Robot-Assisted Radical Prostatectomy.	Urology・2023年173巻98-103ページ	Original Article
178	Kojima,S/Kit aguchi,D/Iga ki,T/他	医療機器開発センター	Deep-learning-based semantic segmentation of autonomic nerves from laparoscopic images of colorectal surgery: an experimental pilot study.	International journal of surgery (London, England)・2023年109巻4号813-820ページ	Original Article

179	Ikematsu,H/I shihara,M/O kawa,S/他	医療機器開発センター	Photoacoustic imaging of fresh human surgically and endoscopically resected gastrointestinal specimens.	DEN open・2022年2 巻1号e28ページ	Original Article
180	Kitaguchi,D/ Takeshita,N/ Matsuzaki,H/ 他	医療機器開発センター	Deep learning-based automatic surgical step recognition in intraoperative videos for transanal total mesorectal excision.	Surgical endoscopy・ 2022年36巻2号 1143-1151ページ	Original Article
181	Igaki,T/Take naka,S/Wata nabe,Y/他	医療機器開発センター	Universal meta-competencies of operative performances: a literature review and qualitative synthesis.	Surgical endoscopy・ 2023年37巻2号835- 845ページ	Letter
182	Araki,J/Nishi zawa,Y/Fujit a,N/他	クオリティマネジメント室	Anorectal Transplantation: The First Long-term Success in a Canine Model.	Annals of surgery・ 2022年275巻4号 e636-e644ページ	Original Article

計182件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					

計0件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 <研究倫理審査委員会標準業務手順書> ・ 委員会の運用規定 ・ 審査種別ごとの手順 など <対象指針> ・ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 ・ 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 ・ ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 臨床研究を含む当センターの研究に携わる者のCOI管理手順は、COI管理規程及びCOI委員会運営規程において定められている。 1. 管理対象	

管理対象については、COI管理規程第3条に定められており、臨床研究を行おうとする研究者が該当する。

2. 申告

研究者は、COI管理規程第4条により、年一回の定期申告及びCOI状況の変動の都度申告を行う。

3. COI委員会

COI委員会は、COI管理規程第6条により、研究者より申告のあったCOIにつき、審査を行い、理事長に対し、意見等を述べるとともに、研究倫理審査委員会等各種倫理審査委員会委員長からの研究者のCOIの申告内容、審査結果等の開示請求があれば、これに応じることとされ、さらにCOI委員会運営規程第5条に基づき、COI委員会委員長は、研究倫理審査委員会委員長等より依頼された審査の結果については、依頼元である研究倫理審査委員会委員長等に報告することとより具体的に定められている。

4. 指導・管理

理事長は、COI委員会の意見に基づき、COIに関し、改善が必要と判断する場合、当該研究者に対し、当該研究への参加の取りやめまでも含む改善に向けた指導・管理を行う。

5. 臨床研究法対応

COI管理規定第5条により、臨床研究法施行規則第21条第2項（いわゆる「事実確認」）に関する事務権限を理事長から生命倫理部COI管理室に委譲している。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年1回（合議）
※令和4年度書面審査件数
：医学系指針対象研究181
件（2123名）、医師主導治
験121件（2753名）

（注）前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 2022年6月1日開催：遠矢和希「研究倫理の歴史と基本的な考え方」 2022年7月6日開催：中田はる佳「PPI (Patient and Public Involvement) について」 2022年10月6日開催：會澤久仁子「研究のわかりやすい説明や公開のために」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1) 各診療科および診療領域のローテーションと研修指導医による指導ならびに評価。 # 評価票の提出は必須。
2) Tumor boardおよび臓器別のカンファレンスへの参加と討議。下記に主なカンファレンスを記載する。 頭頸部カンファレンス、食道カンファレンス、消化管術前カンファレンス、胃癌カンファレンス、Phase Iカンファレンス、呼吸器カンファレンス、呼吸器術前カンファレンス、チェストカンファレンス、泌尿器カンファレンス。サルコーマカンファレンス、乳腺病理カンファレンス、肝胆膵画像カンファレンス、リンパ腫カンファレンス、など。
3) 教育および包括的がん臨床研修を目的としたカンファレンスへの参加。 臨床研究セミナー、リサーチカンファレンス、TRプロジェクトカンファレンス、多地点合同メディカルカンファレンス、MRC(Medical Research Conference)、MOC(Medical Oncology Conference)など。
4) 交流研修：院外施設または研究所への研修（研修指導医の許可と指導医の管理下での研究が原則）

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	129 人
-------------	-------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松浦 一登	耳鼻咽喉科	頭頸部外科長	31年	
田原 信	内科	頭頸部内科長	26年	
東野 琢也	形成外科	形成外科長	23年	
大西 達也	外科	乳腺外科長	18年	サブスペシャリティ 乳腺外科
向原 徹	内科	腫瘍内科長	26年	
坪井 正博	外科	呼吸器外科長	35年	サブスペシャリティ 呼吸器外科
後藤 功一	内科	呼吸器内科長	32年	
藤田 武郎	外科	食道外科長	21年	
木下 敬弘	外科	胃外科長	28年	
伊藤 雅昭	外科	大腸外科長	29年	
設楽 紘平	内科	消化管内科長	20年	
矢野 友規	内科	消化管内視鏡科長	25年	
後藤田 直人	外科	肝胆膵外科長	24年	
池田 公史	内科	肝胆膵内科長	28年	
増田 均	泌尿器科	泌尿器・後腹膜腫瘍科長	32年	
田部 宏	婦人科	婦人科長	26年	
中谷 文彦	整形外科	骨軟部腫瘍科長	19年	
林 隆一	リハビリテーション科	リハビリテーション科長	37年	

南 陽介	内科	血液腫瘍科長	26年	
細野 亜古	小児科	小児腫瘍科医長	26年	サブスペシャリティ 小児科
小西 哲仁	歯科	歯科医長	24年	
橋本 学	麻酔科	麻酔科長	24年	
芹田 良平	集中治療科	集中治療科長	32年	
三浦 智史	内科	緩和医療科長	18年	
小川 朝生	精神科	精神腫瘍科長	23年	
小林 達伺	放射線科	放射線診断科長	29年	サブスペシャリティ 放射線診断
秋元 哲夫	放射線科	放射線治療科長	36年	サブスペシャリティ 放射線治療
石井 源一郎	病理診断科	病理・臨床検査科 長	32年	
土井 俊彦	内科	先端医療科	33年	
成田 善孝	脳神経外科	脳脊髄腫瘍科長	31年	
相原 由季子	眼科	眼科医師	17年	
高橋 聡	皮膚科	皮膚腫瘍科長	22年	
内藤 陽一	内科	総合内科医長	22年	
松本 慎吾	内科	呼吸器内科医長	25年	サブスペシャリティ 呼吸器内科
小島 隆嗣	内科	消化管内科医長	23年	サブスペシャリティ 腫瘍内科
小西 大	外科	肝胆膵外科医師	38年	サブスペシャリティ 消化器外科

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
○ 認定看護師教育課程（がん化学療法看護） ・ 研修の期間・実施回数 2022年9月28日～2022年3月24日（660時間） ・ 研修の参加人数 がん化学療法看護8名 ○ がん看護研修会（コミュニケーションスキルファシリテーター養成研修） ・ 研修の期間・実施回数 2022年12月9日～10日 ・ 研修の対象施設・参加人数 2017-2019年度までに当施設で開催したがん看護研修に参加した施設および中央病院開催 NURSEのコミュニケーションスキル研修受講施設の中から5施設10名（1施設2名） ○ 病院看護師のための認知症対応力向上研修 ・ 研修の期間 2022年10月14日～15日 ・ 研修の対象施設・参加人数 関東近郊のがん診療連携拠点病院・NC・NH0看護師 61名（17施設） ○ 公開がん看護セミナー「看護師のための遺伝性乳癌卵巣癌症候群セミナー」 ・ 研修の期間 2023年1月11日～2月10日 web公開 ・ 研修の対象施設・参加人数 全国の都道府県がん診療連携拠点病院、柏市訪問看護ステーション、当院認定看護師教育課程修了生の所属施設 視聴履歴 各コンテンツ平均閲覧回数732回 最大1019回 最小524回／31日間 ○ がん化学療法看護認定看護師教育課程実習（国立がん研究センター東病院） 2023年1月16日～2月15日 2名 ○ がん看護専門看護師 実習 2022年4月18日～28日 青森県立保健大学 2名

2022年6月6日～7月1日 埼玉県立大学 1名

2022年7月4日～9月2日 慈恵会医科大学 1名

2022年9月5日～10月6日 聖路加国際大学 1名

2022年11月28日～12月9日 岩手県立大学 1名

○ 看護管理学 修士課程 実習

2022年9月5日～9日 北海道医療大学 1名

○ 特定行為研修実習

「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」（公益
社団法人日本看護協会 看護研修学校）2022年4月11日～27日 1名 2022年5月9日～25日 1
名 2023年3月13日～4月7日 1名

「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」（茨城県立医療大学）2022年10月3日～14日 1名

○薬剤師レジデントに対する研修（がん医療に精通した薬剤師を養成）

研修の期間・実施回数：3年間

研修の参加人数：1年目7名、2年目6名、3年目4名、計17名

○がん専門修練薬剤師に対する研修（臨床研究にも積極的に関わる薬剤師を養成）

研修の期間・実施回数：2年間

研修の参加人数：2022年度は実績無し。

○医薬品医療機器総合機構（PMDA）職員に対する薬剤部長期研修（PMDA職員（薬剤師）が臨床現場
を長期に実地研修）

研修の期間・実施回数：10か月間

研修の参加人数：1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

○ISO 15189 内部監査員研修会

主な研修内容：内部監査の目的・有効性の評価・是正処置・リスクマネジメント

・研修の期間・実施回数：2022年12月9日～2022年12月22日（web開催）

・研修の参加人数： 計24名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

○「放射線技術カンファレンス」（放射線技術部主催）

・研修の主な内容

周辺地域の診療放射線技師を対象に、以下の内容で開催した。 講師は院内スタッフが務める他、一部外部より講師を招聘した。

第13回（Web開催） 放射線の線量管理が義務化されたことに伴う“線量管理システムについて”をテーマとして、当院と近隣施設の放射線技師から管理状況について講義

第14回（Web開催） 頭頸部の画像診断について、当院の放射線科医師、放射線技師から講義

第15回（Web開催） 医療安全と人材教育について、当院の医療安全担当副看護部長と放射線技術部長から講義

・研修の期間・実施回数

研修期間は毎回2時間、年度内で3回開催した。

・研修の参加人数

第13回 Web Live形式で実施 事前参加人数は138名で、Live時95名であった。

第14回 Web Live形式で実施 事前参加人数は133名で、Live時94名であった。

第15回 Web Live形式で実施 事前参加人数は87名で、Live時66名であった。

○「放射線（光子線）治療の品質保証・管理の実地研修」（放射線品質管理室主催）

・研修の主な内容

論文調査報告会を開講した。コース内訳は、最新の放射線治療の臨床および医学物理の情報

提供である。担当は院内および院外の医学物理士が務めた。

・研修の期間・実施回数

研修期間は各コースともに2時間で、10回実施した。

・研修の参加人数

参加延べ人数は約110名であった。

○がん薬物療法認定薬剤師 認定研修（日本病院薬剤師会からの受託研修）

研修の期間・実施回数：2 か月 年 2 回実施

研修の参加人数：第1期2名、第2期1名 計2名が研修を修了

○がん診療病院連携研修（日本臨床腫瘍薬学会からの受託研修）

研修の期間・実施回数：30 日間（約 1.5 か月） 年 3 回実施

研修の参加人数：第1期2名、第2期1名 第3期2名 計5名が研修を修了

○地域保険薬局薬剤師を対象としたがん医療に関する研修会

研修の期間・実施回数：1回2時間 年2回実施

研修の参加人数：第1回80名、第2回123名 計203名

○近隣保険薬局薬剤師を対象とした経口がん薬治療に関する研修会

研修の期間・実施回数：1回1時間 年12回実施

研修の参加人数：計381名（第1回～第12回延べ人数）

（注）1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	(2). 現状
管理責任者氏名	クオリティマネジメント室長 西澤 祐史	
管理担当者氏名	総務課長 吉野 章 医療安全管理室長 内藤 陽一 臨床工学室長 兼平 丈 放射線技術部長 村松 禎久 臨床検査部長 山川 博史 COI管理室長 山本 正樹 サポートイブケア室長 池田 公史	医事管理課長 會澤 正芳 感染制御室長 沖中 敬二 薬剤部長 川崎 敏克 副放射線技術部長 伊藤 昌司 臨床研究支援部門長 佐藤 暁洋 産学連携支援室長 小石原保夫

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	・総務課 ・医事管理課 ・薬剤部 ・看護部 ・医療情報管理部 ・電子カルテ	・病院日誌、各科診療日誌（日当直日誌） ⇒総務課 2 年保管 ・処方箋 ⇒薬剤部 5 年保管 ・診療録記録（診療録・諸記録・エックス線等）、手術記録 ＜電子媒体＞ ⇒電子カルテ管理 ＜紙媒体＞ ※院長が指定したものについては永久保存 ⇒医事管理課保管 (1)診療録15年。 （電子カルテ導入2008年） (2)内視鏡フィルム10年 （内視鏡システム導入2013年） (3)X線フィルム5年 （PACS導入1990年代） ※院内規程で診療録を病院外へ持ち出すことを許容していない。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	文書保存 電子媒体
		高度の医療の提供の実績	医事管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事管理課	
		高度の医療の研修の実績	教育連携室	
		閲覧実績	総務課、医事管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事管理課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事管理課 薬剤部	
	規則第十一條第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	文書保存 電子媒体
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	

		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
--	--	--	---------	--

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	文書保存 電子媒体
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME室 医療安全管理室 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME室 医療安全管理室 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME室 医療安全管理室 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME室 医療安全管理室 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	文書保存 電子媒体
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
		管理者が有する権限に関する状況	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 大津 敦
閲覧担当者氏名	総務課長 吉野 章
閲覧の求めに応じる場所	統括事務部柏キャンパス総務課
閲覧の手続の概要 閲覧者希望者は閲覧申請書を病院長あてに提出し、閲覧に問題がないことを確認した後に、閲覧者あてに承諾書を発行する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0 件
閲 覧 者 別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 患者に対する十分なインフォームド・コンセントに基づいて「患者と医療従事者との良好な信頼関係を樹立」し、患者本位の全人的かつ安全な医療を提供する。また、医療に係る苦情、相談についても適切に対応する。 2. 医療における基本の徹底およびその質の向上を図るとともに、全ての医療従事者に「医療過誤は絶対起こさない」という意識改革及び啓発を図るため、教育・研修および講演会を定期的に開催する。 3. 医療従事者自らが、医療行為の基本的事項を日々点検・確認し、アクシデント（医療事故）又はインシデント事例が発生した場合は直ちに所属リスクマネージャーに報告するとともに患者および関係者に説明のうえ適切に対処し、アクシデント（医療事故）内容等の調査・検討および再発の防止対策を速やかに講ずる。 4. アクシデント（医療事故）またはその可能性がある事故発生時は、医療従事者個人ではなく、病院として対応（患者説明を含む）し、病院長の指示の下に行う。 5. 上記4つの事項を遂行する為に、次に掲げる組織及び体制を整備する。 1) 医療安全管理委員会 2) 医療安全管理部会 3) 医療事故調査委員会 4) 医療安全管理室 5) リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議 6) 医療事故防止に対する外部評価 7) 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等導入 8) 患者・家族相談窓口 6. 本指針は、患者およびその家族等へ掲示等により周知させるものとする。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容： 1. 安全管理について審議するため、病院長を委員長とする医療安全管理委員会を設置し以下の内容を審議している。 1) 安全管理の指針に関すること 2) 医療事故防止の体制に関すること 3) 医療事故防止に関する啓発・普及・研修に関すること 4) 医療事故に係る院内体制に関すること 5) 医療安全管理部会で審議された事項に関すること 6) 当院において重大な問題が発生した場合における速やかな原因の究明・調査・分析・改善のための方策立案・周知、方策実施状況の調査・見直しに関すること 7) 医療事故として判断された場合における原因調査対応策及び院外報告に関すること 8) 医療事故調査委員会の設置に関すること 9) 医療事故調査制度に関すること 10) 規定する死亡の予期及び報告に関すること 11) その他医療事故に関する必要な事項 2. 医療安全管理委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に院内の安全管理を担うため、委員会の下に医療安全管理部会（年12回開催）を設置し以下の内容を審議している。 1) 医療安全管理委員会の決定に基づき、具体的な対策の企画及び立案に関すること、その他部会の庶務に関すること 2) インシデント・アクシデント・有害事象報告の分析と検討及び医療事故防止対策の策定に関すること 3) 対策の実施状況の調査及び必要に応じた対策の見直しに関すること 4) 安全管理のための研修・啓発普及・教育等の企画立案及び実施に関すること 5) 事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関すること 6) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関すること 7) 事故等の原因究明についての確認・指導に関すること	

- 8) 全死亡例チェックに関すること
- 9) 医療安全管理に係る連絡調整に関すること
- 10) その他医療安全対策の推進に関すること

3. 週1回の医療安全管理部会員による報告事象検討会では、医療安全管理室へ報告されるインシデント・アクシデント・有害事象の情報共有・再発防止策の検討・医療安全管理部会への報告事象の選定等が行われる。報告事象検討会で選定された報告事象は、医療安全管理部会にて予防策の策定及び提言について検討され、医療安全管理委員会にて最終審議が行われる。医療安全管理委員会での決定事項は、リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議にて説明・指示・伝達され、職員への周知がなされる。

<医療安全管理委員会構成員>

委員長：病院長

委員：医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）、医療安全管理室長、先端医療開発センター長、副院長、内視鏡センター長、医薬品安全管理責任者（薬剤部長）、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者（放射線診断科長）、副医療放射線安全管理責任者（放射線技術部長）、看護部長、副統括事務部長、臨床検査部長、医事管理課長、医療安全管理者、顧問弁護士、その他委員長が必要と認めた者

<医療安全管理部会構成員>

部会長：医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）

部会員：医療安全管理室長、医療安全管理者、感染制御室長、外科系医師・内科系医師（各3名）、看護師長（2名）、医療安全専従薬剤師（副薬剤部長）、副放射線診断技術室長、副放射線治療技術室長、副臨床検査部長、臨床研究安全管理担当者、栄養管理室長、臨床工学室長、理学療法室長、医療対話推進係長、その他部会長が必要と認めた者

<リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議構成員>

医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）、医療安全管理室長、医療安全管理者

リスクマネージャー：科長・部長・課長・技師長・室長

サブリスクマネージャー：副部長・看護師長・副技師長

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			年12回
・ 研修の内容（すべて）：			
研修名	内容	対象者	参加人数
新採用者 オリエンテーション	医療安全管理	新採用全職員	162 名
初期技術研修 1： 医療安全の基本	医療安全の基本について	新人看護師	65 名
初期技術研修 1： 転倒転落	転倒転落の基本、要因、 予防策	新人看護師	65 名
中途採用・育休復帰者 オリエンテーション	医療安全管理の基本	中途採用・育休復帰者 全職種	178 名
麻薬・向精神薬の 取り扱い	麻薬・向精神薬の取り扱い	看護師	326 名
◎東病院の	当院における	全職員	1753 名

医療安全管理体制と 事例報告	医療安全管理体制・事例と 対策等についての講演		
看護助手・看護補助者研修 患者誤認	患者誤認の要因、患者確認方法、演習	看護助手・看護補助者	80 名
MRI 吸着事故防止	MRI 検査の基本・禁忌医療機器・起こり うる事故について	看護師・看護助手・ 看護補助者	76 名
BLS/AED 演習	BLS/AED 使用方法の演習	看護師・医師・診療放射 線技師・薬剤師・臨床検 査技師・臨床工学士・理 学・作業・言語療法士	600 名
医薬品の安全使用のための 研修	周術期に休薬を要する医薬品一覧につ いて・高濃度 KCL 注の投与について・医 療用麻薬の取り扱い、医薬品の常備薬の 期限確認について	医師・薬剤師・ 看護師	729 名
◎カルテ記載の重要性と急 変時対応	医療安全と関連法「カルテ記載の重要 性」と急変時対応【①AED が届くまで】 【②AED の操作方法】（動画講義）	全職員	1774 名
看護部研修 「I V ナース養成講座」	静脈注射におけるリスクマネジメント 安全対策・事故防止対策	看護師	16 名

◎は全職員受講必須研修

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（**有**・無）
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容：
1. 医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等を定める医療安全管理規程により、医療安全管理委員会、医療安全管理部会を設置している。
 2. 各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを設置し、インシデント・アクシデント事例の報告内容の把握・検討等を行うなど、医療安全対策の改善・向上に取り組んでいる。
- 【具体的内容】
1. 患者誤認対策
 - 1) 医療者間の患者誤認防止対策強化
 2. 患者影響レベル0報告の推進：年度目標20%以上
 - 1) 部署別年間活動：医療安全管理部会での取り組み
 3. 医師の報告率推進：年度目標13%以上
 4. 転倒転落防止策強化：転倒転落率0.25%以下
 - 1) 看護師要因の転倒削減：患者の傍を離れないことの徹底

- 2) 転倒転落防止デー・ウィーク：転倒0件と積極的なレベル0報告
- 5. レポート開封率：99%
- 6. 医療安全管理室ラウンド
 - 1) 患者確認方法
 - 2) ポケットマニュアル携帯状況
 - 3) 医療安全周知事項確認
 - 4) 輸血実施方法確認
 - 5) ハリーコールラウンド
 - 6) 環境ラウンド
(転倒転落予防、アラーム対応、与薬カート・麻薬金庫施錠状況含む)
- 7. 個人情報管理強化
白衣洗濯時・院内での個人情報関係拾得物（名札紛失も含む）の報告を徹底
- 8. 退院時薬剤等渡し忘れ対策
- 9. 新規治療導入
 - 1) 高難度新規医療技術評価委員会：9件
 - 2) 未承認新規医薬品等評価委員会：1件
- 10. 救急体制の整備
 - 1) 夜間のハリーコール体制整備
 - 2) 通院治療センター内のAED設置
 - 3) 薬剤性肝障害発生時の対応マニュアル作成
- 11. 院内事例検討会：1件
- 12. 院内事故調査委員会：0件

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無		
・ 指針の主な内容： 院内感染対策委員会および感染制御室を設置し、院内感染の発症原因・状況の調査を行い、また対策の策定・指導・評価を実施し院内感染の防止に努める。その実働役割として院内感染対策チーム（ICT）を設置している。2019年度に抗菌薬適正使用支援チームを設置し、抗菌薬適正使用の推進活動を強化した。他、現場における院内感染対策推進活動を行う ICT リンクナースを配置している。 ICT はサーベイランス、感染に関するコンサルテーション、感染対策マニュアル、抗菌薬適正使用マニュアルの作成・改訂、職業感染防止対策に関する院内の現状把握と対策、職員への感染対策に関する啓発・教育、他施設との感染対策に関する情報交換を行うものとする。またアウトブレイク等の問題発症時には、ICT は現場調査を行い、感染対策実施状況を把握するとともに、対応策の立案および現場への指導を行う。保健所への届け出が必要な場合には、事務職員が届出を行う。院内の対策で収束されない場合は外部専門機関（千葉県院内感染対策地域ネットワーク）に相談する。 委託職員を含めた全職員を対象に年2回程度定期的に院内感染対策研修を企画・運営する。			
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回		
・ 活動の主な内容： 院内感染対策委員会では、院内感染情報報告・抗菌薬使用状況報告・手指消毒剤使用量報告等を行い院内の感染発症状況と対策を把握し ICT が行っている対策の指導評価を行っている。また感染対策に関する研修は委員会による強制力をもって受講するよう指導している。 毎日のMicrobiologyラウンドに加え、院内ラウンド・抗菌薬ラウンドを毎週実施し、その結果を院内感染対策委員会と ICT 連絡会で報告している。			
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 11 回		
・ 研修の内容（すべて）：			
テーマ	内 容	対象者	参加人数
新採用オリエンテーション	当院の感染対策とその対応	全職種の新採用者	160 名
新人看護師教育初期技術研修	感染対策の基本	看護師の新採用者	65 名
看護部研修 「IVナース養成講座」	血流感染とその対策	看護師	16 名
◎感染経路別予防策について	感染経路別予防策と対策が必要な疾患・微生物	委託職員を含めた全職員	2,042 名
抗菌薬適正使用について	最近の国内の現状、内服抗菌薬の課題	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	900 名
◎感染対策とワクチン	医療関係者とワクチン 免疫不全とワクチン	委託職員を含めた全職員	2,016 名
TDMについて	TDMと対象薬剤	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	868 名

新型コロナウイルス中和抗体薬 (エバシールド)投与に伴う研修	がん患者へのワクチンと 抗体製剤について	血液腫瘍科医師・看護師 (主に通院治療センター) ・薬剤師	19 名
医師 着脱訓練・N95フィットテ スト	個人防護具の正しい着脱 方法とN95漏れ率の測定	医師	213 名
看護師等N95フィットテスト	N95の正しい使用方法と 漏れ率の測定	看護師・看護助手・その他 職種	596 名
感染管理の基本	感染対策の概要、標準予 防策について	看護助手・補助者	81 名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - ・ 細菌検査室と毎日血液培養等の検出菌について情報を共有している。また、毎週院内における全検出菌のチェックを行い、その動向を確認している。院内で規定の標的微生物が検出された場合には、電話で感染管理専従者、発生部署、担当医に報告する体制としている。感染症発生状況について月情報をまとめ院内感染対策委員会で報告している。
 - ・ 電子カルテシステムを利用したアウトブレイクの監視、環境ラウンドによる衛生環境の整備、感染対策防止加算に基づいた地域病院への指導、相互評価での指摘に応じた環境改善を行っている。抗菌薬が院内で適切に使用されるよう支援も実施している。また、がん患者の感染症予防対策についての情報提供をホームページにて公開している。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症に対し、COVID-19対策本部会議を原則2回/月実施し、院内での陽性者・濃厚接触者の共有、県内・市内の発生状況の把握、院内での感染対策について協議し、感染制御室より周知している。また、病院入り口での検温、体調確認や職員の就業前体調確認、入院患者の新型コロナウイルス感染症スクリーニング検査などを行い、院内への感染症の持ち込み防止対策を強化している。その他、患者向けにコロナウイルスワクチン接種についてホームページを活用した情報公開を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
1. 医療従事者を対象とした医薬品の安全使用に関する研修会 「医薬品の安全・適正な使用について」 (対象：医師、薬剤師、看護師) (受講者数：729名、受講率：99.3%) 2. 看護師を対象とした麻薬・向精神薬の取扱いに関する研修会 「麻薬・向精神薬の取扱い」 (対象：全病棟看護師) (受講者数：326名、受講率：100%)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・ 手順書の作成 (①・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 1. 名称・外観が類似している医薬品、複数規格が採用されている医薬品については、注意喚起に関する表示、取り間違い防止の対策を講じている。 2. ハイリスク薬については、払い出し時にリマインドカードを添付するなど薬品個別に対応している。特に抗がん剤は、B型肝炎ウイルスの再活性化の防止対策も含め、適正使用の観点からすべてのオーダーをレジメンごとに薬剤師が確認している。 3. 病棟における医薬品に関する業務手順の順守状況について、薬剤師が定期的にチェックしている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： 保険適応外医薬品や個人輸入医薬品 (治験審査委員会、研究倫理審査委員会及び未承認新規医薬品等評価委員会の審議対象となる未承認／適応外医薬品を除く) については薬事委員会へ申請し、審議結果を院長の決裁を得るよう薬事委員会規程に定めてある。 国内既承認医薬品の適応外使用に係る薬事委員会審議件数： 計114件 (2022年度実績) ・ その他の改善のための方策の主な内容 1. 周術期に休薬を要する一覧表の更新について、医師、薬剤師へ周知した。 周術期に休薬を要する抗凝固薬等に必要な休薬期間について情報更新を行った。 2. ノルアドレナリン注の限定出荷に伴う効率使用を医師へ周知した コロナ関連の需要増大と原薬精製における遅延による生産量の一時的な流通低下に伴うノルアドレナリン注の限定出荷に対して、医薬品情報管理室より全医師へ発信。 (2021年8月2日に院内へ配信)	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年151回(放射線) 年45回(臨床検査) 年37回(臨床工学)
・ 研修の主な内容： 【放射線部門】 令和4年度の総研修回数は151回で、平均参加率は100%(含：後日伝達)であった。以下に概要を示す。 1. 新規医療機器導入時の安全使用研修 4回, 100% 2. ローテーション時における各装置の操作マニュアル、運用マニュアルによる研修 135回, 100% 3. 装置のバージョンアップ・メンテナンス時の操作変更時の研修 0回, 100% 4. 故障時の対応方法の研修 該当なし 2回, 100% 5. 医療機器の安全に関する法令に関する研修 6回, 100% 6. 各分野の機器類のトレンドに関する研修(勉強会を含む) 4回, 100% 【臨床検査部門】 令和4年度の総研修回数は45回で、参加率は100%であった。以下に概要を示す。 1. 新規医療機器導入時の安全使用研修 4回, 100% 2. ローテーション時における各装置の操作マニュアル、運用マニュアルによる研修 35回, 100% 3. 装置のバージョンアップ・メンテナンス時の操作変更の研修 3回 4. 故障時の対応方法の研修 3回, 100% 5. 医療機器の安全に関する法令に関する研修 0回 6. ISO15189(国際規格)に基づく研修(機器操作・安全管理) 0回 【臨床工学部門】 令和4年度の総研修回数は37回で、追加・伝達講習を含めた修了率は100%であった。以下に概要を示す。 1. 新機種(後継機種)の安全使用研修 ①HMEプースター 1回, 100% ②超音波ネブライザ 11回, 100% ③シリンジポンプ 2回, 100% ④腹水濾過濃縮装置 2回, 100% 2. 新規採用看護師対象の初期技術研修 12回, 100% (人工呼吸器編 4回あり) 3. 人工呼吸器安全使用研修 3回, 100% (上記、初期技術研修は含まず) 4. 血液浄化療法研修会 2回, 100% 5. 救急蘇生(AED)研修 2回, 100% 5. 電気メス安全使用研修会 2回, 100% (除細動器研修会は、ME室でCOVID-19発生の為、メーカー実施としたが記録とれず)	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 【放射線部門及び放射線品質管理室】 令和4年度の保守点検回数は128回、修理回数は157回であった。 1. コンサルティング会社と連携し、前年度の機器の整備保守状況を把握・勘案し、適切な保守内容および点検間隔を計画し策定した。 2. 施設より承認・契約された保守計画に従って、メーカー担当者により点検が実施され、その動作確認および点検内容を各部門の安全管理担当者が確認し、副安全管理責任者が承認した。日常点検は各機器担当技師が実施し、電子カルテ端末内に記録・評価・保存した。 3. 診療用高エネルギー放射線発生装置及び粒子線照射線装置は、医学物理士と放射線技師が連携し、品質管理試験を定期的実施、記録・評価・保存をした。

4. 地震等の災害発生時には随時、上記装置の品質管理試験を実施・評価し、その品質を担保した。

【臨床検査部門】

1. 定期的保守点検
 - 1) 通常メンテナンス：毎日または週1回
 - 2) 主要部品（消耗品）の交換および定期保守点検：月1回
 - 3) 機器メーカーによる定期メンテナンス（年1回～2回）：137回実施
2. 法令に基づく定期的保守点検
 - 1) フロン類の使用合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）に関する冷蔵庫等の保守点検
実施日：3ヵ月に1回の頻度で実施
場所：病理、遺伝子、検体、細菌、輸血の各検査室
結果：対象となる保冷库（良好）
 - 2) 局所排気装置の自主定期点検指針に基づく定期点検（厚生労働省労働基準局）

作業環境測定

実施日：8/4, 2/24

項目：ホルムアルデヒド、キシレン、メタノール、アセトン

場所：NEXT棟2F病理検査室及び本館BF1解剖室（器材室）

結果：NEXT棟2F病理検査室：管理区分1（良好）
本館BF1解剖室（器材室）：管理区分1（良好）

【臨床工学部門】

1. 人工呼吸器（5機種、13台）：メーカーによる定期点検実施
2. 除細動器（1機種、2台）：メーカーによる定期点検実施
3. 血液浄化装置（2機種、3台）：メーカーによる定期点検実施
4. 血液成分分離装置（1機種、2台）：メーカーによる定期点検実施
5. 手術支援ロボット（1機種、3台）：メーカーによる定期点検実施

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備（有・無）
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：有
 1. 内視鏡光源装置：製品版の光源装置であるが、研究用に出力比率を調整したモードを搭載しており、薬事未承認機器に該当。既存の医薬品等と優位性・安全性等を比較。
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【放射線部門及び放射線品質管理室】

1. PMDAおよびメーカーにより提供される不具合情報の収集
全体件数は698例で、内訳は医薬品関連：463例、医療機器関連：164例、その他：71例であった。
2. 国立病院機構本部から提供される他院での不具合やインシデント事例情報の収集
全体件数は58例で、内訳は装置関連：11例、医療安全関連：11例、その他：36例であった。
3. 1.2の内、当院に直接関連した不具合情報は1例であった。1例はIVR-CT装置Cアーム透視ソフトウェアが原因でCT装置が動作しない可能性があることが判明した。いずれも、修理が完了している。
5. 高精度放射線治療を始めとする品質管理に関する学会（米国医学物理学会）等のガイドラインを積極的に取り入れ、品質管理の適正化と効率的な運用を実施・報告した。
6. 高精度放射線治療に対する最新技術について国内外の学会等から情報を入手し、最新装置に対応した品質管理手法の確立・応用に努めた。
7. 患者さんへの精度の見える化活動の一環として、放射線品質管理室が実施する放射線治療照射装置及びCTの精度管理の結果、並びにMD Anderson Cancer Centerの第三者出力調査の結果を放射線治療待合室脇の掲示板で掲示した。

【臨床検査部門】

1. PMDA医薬品等の回収に関する情報収集
 - 1) 医薬品回収概要（クラスⅠ）院内保有機器、試薬で該当は無し

- 2) 医薬品回収概要(クラスⅡ)院内保有機器、試薬で該当は無し
2. 関連機関<NH0医療専門職・行政>からの医薬品等の回収に関する情報収集 (院内保有機器、試薬で該当は無し)
3. 企業からの医薬品等の回収に関する情報収集(院内保有機器、試薬で該当0件なし)

【臨床工学部門】

1. PMDA医療機器の回収等に関する情報収集
 - 1) 不具合品の回収および交換: 8製品、272個
 - 2) 機器の自主回収(ソフトウェアバージョンアップ対応等): 3製品、5台
2. 関連機関およびメーカーから提供される情報の収集と発信
 - 1) AEDバッテリー納期遅延への対応についてのお知らせ(昨年度から引き続き)
 - 2) 人工呼吸器の使用上の注意
 - 3) CADDポンプの使用上の注意
3. PMDA報告: 1件
 - 1) ステープラー : 作動せず、追加切除が必要となった

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・責任者の資格 (医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 1. 医療安全管理責任者は常勤医師である、医療安全担当副院長が担う。 2. 医療安全管理体制と医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の統括状況 1) 医療安全管理委員会/医療安全管理部会 ・医療安全管理委員会は医療安全に関する最高審議機関であり、病院長を委員長とし事象に対する原因分析や再発防止対策の検討・提言を行う。 ・医療安全管理部会は医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）を部会長とし、医療安全管理委員会のもとインシデント・アクシデント報告の分析、具体的な対策の企画及び立案、改善策の実施状況調査等、委員会の方針に基づき医療安全の実務を行う。 2) 医療安全管理室（医療安全管理部門） ・医療安全管理室は組織横断的な院内の安全管理を担い、委員会の庶務、インシデント・アクシデント報告の整理・保管、現場や診療録からの情報収集及び実態調査、職員へ教育研修等を行う。 3) 医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の統括状況 ・医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）は部会長として医療安全管理部会の業務を統括し、部会の審議結果を医療安全管理委員会に報告する。 ・医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）は医療安全管理室を統括する。インシデント告内容、診療録及び診療内容のモニタリング等を室員と情報共有し、室員は医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の指示のもと、医療安全のための業務を行う。 3. 医薬品安全管理の統括状況 1) 医薬品安全管理責任者は薬剤部長とする。 2) 医薬品安全管理責任者は医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の指示のもと、医薬品安全使用のための業務を行う。 4. 医療機器安全管理の統括状況 1) 医療機器安全管理責任者はクオリティマネジメント室長とする。 2) 医療機器安全管理責任者は医療安全担当副院長（医療安全管理責任者）の指示のもと、医療機器安全使用のための業務を行う。 3) 副医療機器安全管理責任者（放射線技術部長、臨床検査技師長、主任臨床工学技士）は医療機器安全管理責任者の指示のもと、医療機器安全使用のための業務を行う。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 3名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報管理室において情報の収集と評価および整理を行い、院内への情報伝達を行う。病棟薬剤業務担当者により病棟等での情報の周知について確認するとともに、必要に応じて更なる情報伝達を行っている。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 院内における未承認等の医薬品の使用について、医薬品情報管理室を中心として有効性・安全性に関する必要な情報を収集するとともに、医療安全管理室と連携して有害事象の発現に注意を払い適正使用を推進するための方策を検討している。	

・ 担当者の指名の有無 (有・無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤部長) (所属： ， 職種) (所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長) (所属： ， 職種) (所属：薬剤部 ， 職種 主任薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有・無
・ 医療の担い手が説明を行う際、同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：医療行為の内容とそれによってもたらされる危険性・副作用、予測される結果、代替可能な医療行為の有無と内容、これらを実施しなかった場合に予測される結果等について患者へ説明し同意を得るとともに、医師等の説明に基づき患者が自身の病状について充分に理解し治療に協力し、相互の信頼関係に立脚した適切な医療の遂行と治療効果を達成することを目的とし、説明事項・説明者・同席者・説明の相手方・説明方法・同意書の取得等を定めている。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 入院中の診療記録に関しては、退院時に、当該科医長あるいは医員が、記載の不十分なもの、誤記載等について担当者に記載の追加・修正を依頼している。 診療情報管理士は診療記録の監査を行い、入院診療記録について、退院後2週間を経て不備があるときは、医師の記録に関しては主治医及び当該医長に不備の修正を依頼し、適正な記録の管理に努めている。 退院時サマリーに関しては、退院後2週間以内に作成し、上級医の承認を得る運用となっている。 診療科ごとに監査担当医師・看護師・薬剤師を決め、指定された月に指定された診療科の診療記録について、医師・看護師・薬剤師・診療情報管理士による監査を行っている。 診療情報管理委員会では、診療記録に関する問題点を報告し、改善方策を策定するとともに、院内において病院連絡会等で周知をはかるとともに改善状況のフォローアップを行っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有・無

・所属職員：専従（４）名、専任（０）名、兼任（８）名

うち医師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（５）名

うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（２）名

うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（１）名

（注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること

医療安全管理部門	医療安全管理責任者		医療安全担当副院長	専従
	医療安全管理室	医療安全管理室長	総合内科科長	兼任
		医療安全管理者	副看護部長	専従
		専従薬剤師	副薬剤部長	専従
		専従看護師	副看護師長	専従
		臨床研究安全管理担当者	薬剤師	兼任
		高難度新規医療技術部門責任者	胃外科科長	兼任
		高難度新規医療技術担当者	肝胆膵外科科長	兼任
		高難度新規医療技術担当者	手術室看護師長	兼任
		未承認新規医薬品等部門責任者	薬剤部長	兼任
		未承認新規医薬品等担当者	放射線診断科科長	兼任
		未承認新規医薬品等担当者	消化管内視鏡科科長	兼任
	感染制御室 (医療安全所属職員数には含めず)	感染制御室長	感染症科科長	兼任
		感染症科医師	感染症科医師	兼任
		感染管理専従看護師	副看護師長	専従
		感染管理専従看護師	副看護師長	専従
		専従薬剤師	薬剤師	専従
		専任薬剤師	薬剤師	兼任
		専任検査技師	検査技師	兼任
		専任検査技師	検査技師	兼任

・活動の主な内容：

1. 医療安全管理室の活動の主な内容

1) 委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存並びにその他委員会の庶務に関すること

2) 医療安全に係る日常活動に関すること

- ① 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査（定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）
 - ② 医療安全管理マニュアルの作成及び点検、見直し
 - ③ 部門別に作成されているマニュアルの確認及び見直しの提言
 - ④ インシデント・アクシデント・有害事象報告（インシデント・アクシデント・有害事象報告事例を体験した医療従事者が、その概要を記載した文書をいう。以下同じ。）の収集分析、分析結果などの現場へのフィードバック、改善策の提案・推進とその評価、報告書の保管
 - ⑤ 医療安全管理に関する最新情報の把握と職員への周知（他施設における事故事例の把握など）
 - ⑥ 医療安全に関する職員への啓発、広報（月間行事の実施など）
 - ⑦ 医療安全に関する教育研修の企画・運営（具体的な内容については、第27条を参照）
 - ⑧ 医療安全管理に係る連絡調整
 - ⑨ 全死亡例チェックの実施と報告の管理
 - ⑩ 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を記録
 - ⑪ 医療安全管理委員会との連携状況、院内研修の実績、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱い、その他の医療安全管理者の活動実績を記録
 - ⑫ 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンス（医療安全管理室員及び医療安全管理部会員によって構成される報告事象検討会）を週1回程度開催
- 3) 医療事故発生時の指示・指導に関すること
- ① 診療録や看護記録等の記載、医療事故報告書（診療経過報告書）の作成等について、職場責任者に対する必要な指示、指導
 - ② 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認と必要な指導（患者及びその家族、警察等の行政機関等への対応は、病院長、副院長のほかそれぞれの部門の責任者が主として行う）
 - ③ 委員会の指示により設置される医療事故調査委員会の事務
 - ④ 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導
 - ⑤ 医療事故調査委員会報告書の保管
- 4) 新規高難度技術・未承認医薬品導入の審査及び監査に関すること
- 5) その他医療安全対策の推進に関すること

＜モニタリング事例＞

- ・ 転倒転落発生率
- ・ 患者誤認
- ・ 個人情報管理
- ・ 退院時渡し忘れ
- ・ 術後合併症に伴う再手術
- ・ RRS 起動件数
- ・ DVT/PE 評価の実施率

※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（9 件）、及び許可件数（9 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：

1. 「腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術」の導入：R4 年 6 月 1 日評価委員会、導入承認
 2. 「ロボット支援下肝切除術」の導入：R4 年 6 月 1 日評価委員会、導入承認
 3. 「頭頸部腫瘍に対するロボット支援手術」の導入：R4 年 10 月 31 日評価委員会、導入承認
 4. 「磁束計付き MR 装置用高周波コイル及びリアルタイム磁場計測機構」の導入：R4 年 10 月 25 日メール審議、導入承認
 5. 「胸部食道癌に対するロボット支援縦隔鏡下手術」の導入：R4 年 11 月 21 日評価委員会、導入承認
 6. 「胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的全層切除術」の導入：R4 年 11 月 21 日評価委員会、導入承認
 7. 「情報支援内視鏡外科手術システムを用いたイメージナビゲーション手術」の導入：R4 年 11 月 30 日メール審議、導入承認
 8. 「腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術」の導入：R4 年 12 月 26 日メール審議、導入承認
 9. 「ロボット支援下腓頭十二指腸切除術（ロボット支援下総胆管拡張症手術）」の導入：R5 年 2 月 6 日評価委員会、導入承認
- 1～3、5～6、8～9 は実施済の症例について状況報告書を医療安全管理部門で確認済、有害事象なし。
- 4・7 は医療安全管理部門への実施状況報告対象外。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：

医療安全管理部門は、規程に則り、当院における未承認新規医薬品等の使用の適否等を未承認新規医薬品等評価委員会において審議するとともに、使用申請医師から提出される使用状況報告書の内容を診療録等にて確認し、当該医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか遵守状況を確認している。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：

1. 死亡診断した医師が、死亡時の状況を電子カルテシステムにより速やかに医療安全管理部門に報告を行う。
2. 入院患者死亡例のうち、治療関連死亡もしくは予期しない死亡の場合は、担当医が速やかに報告書を医療安全管理室に提出する。

報告件数：年 36 件

3. 全死亡例チェックの実施

上記の報告体制に加え、医療情報管理室が週 1 回、1 週間分の全死亡症例リストを作成し医療安全管理室に報告する。1 次スクリーニングとして、医療安全管理部会員の医師が死亡症例リスト患者の診療録を確認し、①予期した原病死②予期した他病死③予期した治療関連死④予期しない原病死⑤予期しない他病死⑥予期しない治療関連死⑦予期しない不明な死に分類する。2 次スクリーニングとして、医療安全管理責任者または医療安全管理室長が部会員とは独立して診療録を確認し、同様に分類する。1 次と 2 次スクリーニングで分類が異なった場合は、医療安全管理室にて協議し最終決定する。以上の結果③～⑦に分類された症例のうち 1. による報告がなされていない場合は、担当医に依頼し報告書を医療安全管理室に提出する。

全死亡例チェック件数：年 659 件

- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：
医療安全管理マニュアルにて、死亡症例以外においても有害事象報告基準を以下のように定めており、該当した場合には担当医等からインシデント報告書が医療安全管理室に提出される。

＜有害事象報告基準＞

- ①治療関連死
- ②ICU 管理が必要となった症例
- ③薬剤により SAE
- ④薬剤によるアナフィラキシーショック
- ⑤内視鏡による穿孔・処置を要した出血
- ⑥治療に伴う肺塞栓・脳梗塞・心筋梗塞
- ⑦同一入院中の再手術
- ⑧予定手術時間の大幅な超過（2 時間以上もしくは予定の 1.5 倍以上）
- ⑨予期せぬ 2000ml 以上の出血
- ⑩放射線治療に伴う重篤な有害事象
- ⑪irAE（Grade3 以上または稀な Grade1・2）
- ⑫CRS（ICU 入室）
- ⑬ICANS
- ⑭患者要因の抗凝固剤中止忘れによる治療・手術・検査の中止や延期
- ⑮有害事象に対する IVR 処置
- ⑯有害事象による 60 日以上の入院
- ⑰有症候性 PE/DVT 発症時
- ⑱その他

報告件数：年 410 件

- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 医療安全管理室に報告されたインシデント報告内容は、週 1 回の医療安全管理部会による報告事象検討会にて、情報共有・再発防止策の検討・医療安全管理部会への報告事象の選定等が行われる。報告事象検討会で選定された報告事象及び患者影響レベル 3b 以上の全症例は、医療安全管理部会にて報告され、予防策の策定及び提言について検討される。その結果は医療安全管理委員会にて報

告され、最終審議が行われる。また、全死亡例チェック状況の結果も医療安全管理委員会に報告される。医療安全管理委員会での決定事項は、リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議にて説明・指示・伝達され、職員への周知がなされる。 2. レベル 3b 以上の事例のうち、医療安全管理室が特に緊急性が高く速やかな対応が必要と判断した事例については、病院長のもと院内事例検討会を開催し、カルテ等の診療記録・職員からの聞き取り等により事実確認にて、診療内容や患者影響度について検討・分析を行い、医療事故調査制度による報告、医療機能評価機構への報告、医療事故調査委員会での審議等の必要性を審議している。また、この結果は医療安全管理委員会にて報告される。
⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 ・他の特定機能病院等への立入り (有) (病院名：東邦大学医療センター大森病院/R4. 11 月実地) ・無) ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有) (病院名：東邦大学医療センター/R4. 11 月実地) ・無) ・技術的助言の実施状況：有 1. 全死亡症例における医療安全部門への報告迅速化 電子カルテから即時報告するシステムを導入済 2. 薬剤部内への関係者以外立入り規制の表示 表示済 3. 高難度新規医療技術導入における増員検討 診療情報管理士の増員要請中
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 ・体制の確保状況 医療対話推進係長の設置

⑫ 職員研修の実施状況 ・研修の実施状況 1. 研修の実施テーマ 1) 第 1 回 【テーマ】「東病院の医療安全管理体制と事例報告」e-ラーニング 【開催日】 令和 4 年 7 月 12 日～7 月 31 日 【対 象】 全職員 【講 師】 医療安全管理責任者 副院長 小西 大
--

【主な内容】東病院の医療安全管理体制、CLIP 報告実績、医療安全モニタリング事項、特定機能病院要件、体制整備と事例集、R4 年度医療安全目標、医療機器安全管理/診療放射線安全管理

【受講人数】 1,753 名（受講率 100%）

2) 第 2 回

【テーマ】

①医療安全と関連法「カルテ記載の重要性」e-ラーニング

②急変時対応 1「AED が届くまで」、急変時対応 2「AED の操作方法」

【開催日】 令和 5 年 2 月 1 日～2 月 20 日

【対 象】 全職員

【主な内容】

①カルテ記載にかかる医療安全の関連法についての解説（動画講義）

②AED が届くまでの手順と操作方法（動画）

【受講人数】 1,774 名（受講率 100%）

2. 研修の理解度テスト

令和 5 年 7 月に実施：（令和 4 年度 第 1 回 研修テスト内容）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者

2022 年度 特定機能病院管理者研修 主催：日本医療機能評価機構 受講日：2023 年 1 月 26 日

医療安全管理責任者

2022 年度 特定機能病院管理者研修 主催：日本医療機能評価機構 受講日：2023 年 2 月 24 日

医療機器安全管理責任者

2022 年度 特定機能病院管理者研修 主催：日本医療機能評価機構 受講日：2023 年 2 月 24 日

医薬品安全管理責任者

2022 年度 特定機能病院管理者研修 主催：日本医療機能評価機構 受講日：2023 年 2 月 20 日

医療放射線安全管理責任者

2022 年度 特定機能病院管理者研修 主催：日本医療機能評価機構 受講日：2022 年 10 月 30 日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構の病院機能評価・一般病院 3 を受審

訪問審査実施日：2019 年 2 月 20 日～2 月 22 日、交付日：2019 年 8 月 9 日

病院ホームページ公表あり

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

1) 情報伝達エラー防止対策

①口頭指示は「出さない・受けない」ことを原則としているが、手順はあるものの、メモ用紙の書式や口頭指示が可能な事項等の決まりはなく、使用する医薬品の「単位」の標準化等も図られていない。

②画像診断検査および病理診断検査の結果報告書の未読対策に関して、2019 年 2 月にシステム変更のもと「未読検査リスト」が作成できるようにはなったが、具体的な運用方法等の検討・継続的な対応が望まれる。

2) 患者等の急変時に適切な対応

がんの専門病院として救急診療や集中治療機能に特化したスタッフが乏しい状況下、常勤医師の専門領域をリストアップしておくことで有害事象ごとの相談先医師を明確にする工夫は図られているが、RRS として急変前の対応行動が実践できる体制の構築が必要である。

・ 評価を踏まえ講じた措置

1) 情報伝達エラー防止対策

①口頭指示

院内統一の「口頭指示受け用紙」を作成し、薬剤名・投与量等の表現方法を統一し、指示が正確に伝達されるよう運用を開始した。

②画像診断検査および病理診断検査の結果報告書未読対策

医療安全管理室は、電子カルテシステムより放射線診断/病理レポート作成日の翌月末にレポート未開封一覧表を取得する。2019 年 3 月分より運用開始した。

病理レポートは、一覧表をもとに医療安全管理室が臨床影響に関して全例チェックを行う。

放射線診断レポートは、放射線診断部門が医療安全管理責任者の指示の元に診療科ごとの未開封リストを作成し、各診療科長宛に添付送信する。医療安全管理室は、未開封ファイル数の推移を確認し、開封状況が不調な診療科には直接指導する。

3) RRS

RRS の仕組みを構築し、運用を開始した。運用の要点としては、RRT を組織し、RRS 起動の基準を作成した。医師だけでなく看護師も起動可能とした。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 - 基準の主な内容 - 病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験を有し、医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること - ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 - イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務 - ウ 医療安全管理部門における業務 - エ その他上記に準じる業務 - 当該病院内外において組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること - 中央病院及び東病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢と指導力を有していること - 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） - 公表の方法：病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ ☒ 無			
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） - 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の2 3 第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有 ・ 無	
・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営に関する重要な事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 東病院運営会議の議事要旨を作成し、病院全体に周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 公表の方法：病院ホームページ ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (☒ 有 ・ 無) 規程上、議長が必要と認める者（外部有識者を含む）を東病院運営会議に参加させることができるとなっている。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大津 敦	○	医師	病院長
中釜 斉		医師	理事長
中山 智紀		事務	理事長特任補佐
平子 哲夫		事務	理事長特任補佐
土井 俊彦		医師	先端医療開発センター長
林 隆一		医師	副院長
秋元 哲夫		医師	副院長
小西 大		医師	副院長
後藤 功一		医師	副院長
伊藤 雅昭		医師	副院長
吉野 孝之		医師	副院長
栗原 美穂		看護師	看護部長
川崎 敏克		薬剤師	薬剤部長
村松 禎久		診療放射線技師	放射線技術部長
伊藤 昌司		診療放射線技師	副放射線技術部長
山川 博史		臨床検査技師	臨床検査部長
土原 一哉		医師	トランスレーショナルイノヴァティクス分野長
坪井 正博		医師	呼吸器外科長

内藤 陽一		医師	総合内科科長
小林 達伺		医師	放射線診断科長
矢野 友規		医師	消化管内視鏡科長
小川 朝生		医師	精神腫瘍学開発分野 長
橋本 学		医師	麻酔科長
安永 正浩		医師	新薬開発分野長
佐藤 暁洋		医師	研究企画推進部長
石井 源一郎		医師	病理・臨床検査科長
南 陽介		医師	血液腫瘍科長
池田 公史		医師	肝胆膵内科長
東野 琢也		医師	形成外科長
青景 圭樹		医師	医局長
葉 清隆		医師	呼吸器内科医長
小島 隆嗣		医師	消化管内科医長
西澤 祐吏		医師	クオリティマネジメント室長
久保木 恭利		医師	臨床研究実施管理部 長
古賀 宣勝		医師	研究企画推進部門長
冲中 敬二		医師	感染症科長
板垣 麻衣		医師	リサーチアドミニス トレーター室長
曾我 将久		事務	統括事務部長
河田 晃伸		事務	副統括事務部長
吉野 章		事務	総務課長
梅野 喜和		事務	人事課長
福田 一行		事務	企画経営課長
須田 英樹		事務	財務経理課長
會澤 正芳		事務	医事管理課長
成田 恭延		事務	システム管理課長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
 - ・ 公表の方法：病院ホームページ
- ・ 規程の主な内容
 - 理事会規程：病院の運営に関する事項が審議される際、病院長は理事会に出席し、意見を述べるができる
 - 組織規程：病院長は、病院の事務を掌理する。また、特定機能病院としての機能を確保するために必要な事項に関して、理事長に意見を述べるができる。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 組織規程：副院長は、病院長を助け、病院の事務を整理する。
 - 企画経営部を設置し、センターの業務の企画及び調整に関すること、センターの経営に関することの事務をつかさどる。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 国立高度専門医療研究センター合同開催の「医療経営士研修会」等への参加

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 1. 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務の遂行状況の確認及び不適切事案等の監視 2. 医療事故等事案発生時に、病院がとりまとめた不適切事案の詳細、原因の究明、再発防止等の適正性の評価 3. 前号までの知見に基づく是正勧告に関する事項 4. 医療安全管理委員会、高難度新規医療技術評価委員会及び未承認新規医薬品等評価委員会における運営状況に係る監査及び監査結果の報告 5. 病院における医療安全管理体制に係る意見書の提出 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法：病院ホームページ						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
長谷川 奉延	慶應義塾大学病院	○	特定機能病院の医療安全管理体制に精通	有・無	1	
小田 竜也	筑波大学附属病院		特定機能病院の医療安全管理体制に精通	有・無	1	
野田 真由美	NP0 法人支えあう会「α」		患者団体の役員として医療問題に精通	有・無	2	
福田 剛久	田辺総合法律事務所		弁護士として関係の法律に精通	有・無	1	
林 隆一	国立がん研究センター東病院		診療担当副院長として院内診療・医療安全体制を熟知	有・無	1	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 - 理事会、執行役員会、内部統制推進委員会 ・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 公表の方法：病院ホームページ

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会 ・ 会議体の実施状況（ 年 1 2 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 1 2 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 病院ホームページ			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
中釜 齊	理事長	○	☒ 有 ・ 無
間野 博行	研究所長		☒ 有 ・ 無
北川 雄光	慶應義塾大学 常任理事		有 ・ ☒ 無
北川 昌伸	東京医科歯科大学 医学部長		有 ・ ☒ 無
本田 麻由美	読売新聞東京本社 編集局医療部 編集委員		有 ・ ☒ 無
児玉 安司	新星総合法律事務所 弁護士		有 ・ ☒ 無
小野 高史	東京医科大学 常任監事		有 ・ ☒ 無
近藤 浩明	近藤公認会計士事務所（現職）		有 ・ ☒ 無
島田 和明	中央病院長		☒ 有 ・ 無
大津 敦	東病院長		☒ 有 ・ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無） ・ 周知の方法：職員専用の内部サーバー及び医療安全管理ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ・ 第 12 回がん新薬開発合同シンポジウム、第 6 回医療機器開発シンポジウム（2022 年 12 月 16 日）Society5.0 の世界観の中でこれからの医薬品・医療機器開発における産学連携をどのように進めるか議論 ・ 第 6 回メディカルデバイスイノベーション in 柏の葉：web 開催(2022 年 10 月 28 日) 柏の葉に医療機器イノベーションのエコシステム構築することを目指す ・ 内視鏡ハンズオンセミナー2022in 国立がん研究センター東病院(2022 年 7 月 16 日) 次世代 ESD モデルを使用したハンズオンセミナーを開催 ・ NEXT レジデントシンポジウム（2022 年 7 月 9 日、8 月 6 日）卒後 15 年目までの医師を対象に手術・内視鏡見学や現役レジデント等による講演、懇親会を通して、東病院の現場の雰囲気を体感 ・ 第 5 回緩和ケアオンライン勉強会：web 開催(2023 年 1 月 19 日) 医療者・患者間のコミュニケーションを発達の違いから考える ・ AMED 次世代医療機器連携拠点整備等事業医療スタートアップの成功とは何か、アカデミア開発拠点の果たす役割は何か：ハイブリッド開催(2023 年 2 月 6 日) 国立がん研究センター東病院、筑波大学、東京女子医科大学の関東 3 拠点が一体となり、医療機器開発に関わる最新のトピックについて議論	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・ 各診療科で治療方針決定のための多職種カンファレンスを実施 ・ 外科ミーティング、内科ミーティングにより医療安全に関わる情報を共有する体制がある ・ 通院治療センター、入院準備センター、LIFE支援センター、サポート型ケアセンター/がん相談支援センター、家族性腫瘍外来等の配置 ・ 嚥下サポートチーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、感染制御チーム、院内迅速対応チーム、臨床倫理コンサルテーションチーム等の配置	